

女性のキャリア支援と大学の役割についての総合的研究

「女性のキャリア支援と大学の役割に関する調査」結果報告書

平成 23 年度～27 年度
文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

平成 25 年 9 月

日本女子大学
現代女性キャリア研究所
(研究代表者：大沢真知子)

報告書発刊によせて

本報告書は、現代女性キャリア研究所が2011年度より文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の採択を受け、5年間の予定で実施している「女性のキャリア支援と大学の役割についての総合的研究」の第2テーマ「大学における女性の再就職支援プログラムの開発研究」の一環として行われた調査報告である。

本学の「リカレント教育課程」は、大卒女性の再就職支援をおこなう目的で、その前身が2007年9月よりスタートし、2008年4月1日より大学の課程として、日本で初めて認可設置されている。本調査はこの教育課程の修了生を対象としておこなわれた。このプログラムでは4年生大学を卒業した就業経験のある女性を対象としており、4月入学と9月入学がある。受講期間はそれぞれ1年間である。

日本では一旦就業を中断した高学歴女性についての調査はほとんど存在しないが、多くが就業を希望しているといわれる。本調査では、彼女たちのキャリアプロセスについてあきらかにし、再就職支援のために教育課程がどのようなプログラムを提供すればいいのかについて考えるために実施されたものである。

少子高齢化が進む中で、女性の能力活用は避けてはとおれない最重要課題となっている。本調査が今後の女性の能力活用を考える上での一助となればさいわいである。

現代女性キャリア研究所所長

大沢真知子

目 次

報告書の発刊によせて

大沢真知子

1. 問題の背景と日本女子大学リカレント教育課程の歩み・・・・・・・・・・5
2. 調査の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
3. 調査対象者と期間、方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
4. 主な調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
 - (1) 初職について
 - (2) 初職を退職してからリカレント教育課程入学まで
 - (3) 直前職について
 - (4) 入学後職について
 - (5) 現職について
 - (6) 現在、仕事に就いていない人
 - (7) リカレント教育課程在籍中の経験について
 - (8) リカレント教育課程終了後の経験について
 - (9) 調査対象者のプロフィール

1. 問題の背景と日本女子大学リカレント教育課程の歩み

女性の就労支援が社会的課題とされて久しいが、近年はウーマノミクスという表現が用いられるなど、女性の能力活用が社会活性化のための重要戦略であることが強調されている。国の政策においても、今春、中小企業庁が「新戦力発掘プロジェクト」として、育児等で一度退職した再就職を希望する女性たちを対象に、再就職支援事業を立ち上げた。中小企業での職場実習(インターンシップ)を通じて、職場経験のブランクを埋め、再就職へのきっかけをつかんでもらおうというもので、新たな支援の試みとして注目される。

これまで、女性の再就職支援に関しては、地域の女性センターやNPO等の民間団体などさまざまな立場から取り組まれてきたが、就労を希望しながらも再就職の場を得られずに思い悩んでいる女性は多い。『平成23年版働く女性の実情』によれば、潜在的労働力率と就業率の差は、35~39歳で最も大きく15ポイントである。さらに高学歴女性を対象とした再就職支援については、女性たちのニーズにあった支援は未だに乏しく、過去には、高学歴女性ほど再就職率が低いという調査結果も示されている(『平成20年版働く女性の実情』)。

日本女子大学のリカレント教育課程は、こうした背景のもと、四大卒女性を対象とした初めての再就職支援・教育プログラムとして、2007年9月よりスタートしている。この教育課程の前身は、「キャリアブレイク中の女子大学卒業生のためのリカレント教育・再就職斡旋システム」として、本学が立案し、文部科学省の2007年度「社会人の学び直しニーズ対応教育事業委託」として採用された事業である。以後、大学卒業後就職しても、育児や夫の転勤、あるいは自分の進路変更などによって離職した女性に1年間(春・秋入学の2学期制)のリカレント教育を提供し、修了者に再就職先を斡旋することを一体化したこの事業を「リカレント教育・再就職システム」と呼称し実施してきた。この「リカレント教育・再就職システム」は、2007年12月に施行された改正学校教育法によってそのステータスが変わることとなり、改正法施行後の最初の学期である2008年4月1日より、大学の課程として日本で初めての「リカレント教育課程」となった。さらに2010年3月31日をもって、文部科学省の委託から独立し、日本女子大学独自の教育課程として生涯学習センターに所属し、運営していくこととなった。

大学が女性を対象にこうした再就職のための教育と支援に取り組むのは、日本では初めてのことであり、これまでの職業訓練的なプログラムではなく、能力開発や大学の学部科目以上のレベルでビジネス科目を提供するという新しい試みは、社会的関心を集めている(註1)。

2. 調査の目的

現代女性キャリア研究所では、女性のキャリア支援とそこで果たすべき大学の役割について明らかにすることを目的に、「女性のキャリア支援と大学の役割についての総合的研究」(平成23年度~27年度・文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業)を実施している。本調査は、その中でも「大学における女性の再就職支援プログラムの開発研究プロジェクト」

の一環として、日本女子大学がいち早く女性の再就職支援として取り組み始めたリカレント教育課程修了生を対象に行ったものである。

調査の主な目的は以下の2点である。1点目はリカレント教育課程に集ってくる女性たちは、どのようなキャリア・プロセスをたどり、どのような就労意欲をもっているのか、その実態を把握すること。大学の再就職支援につながってくる層の特徴を明らかにすることで、支援の方向性を探る。2点目は、実施から6年を経たリカレント教育課程への評価を量ることである。リカレント教育課程は2007年9月より、その前身がスタートしている。4年制大学を卒業した就業経験のある女性を対象としており、4月入学と9月入学があり、受講期間は、それぞれ1年間である。女性の再就職支援を目的としたこうした教育プログラムは、日本ではまだ少なく、充実した教育実践を目指すためには、この間の授業への評価や、教育効果について点検することが必要であろう。さらに、リカレント教育課程における経験がその後のキャリアや生き方にどのような影響を及ぼしているのかを確認することで、再就職支援における大学の役割について検討していきたい。

3. 調査対象者と期間、方法

調査対象者や方法については、以下の通りである。

日本女子大学リカレント教育課程には、調査時点で250名が入学していた(2007年9月入学の第1回生～2012年9月入学の第11回生まで。2012年度までの入学者数)。内、1年間の教育課程を修了したものは140名である(第11回生は調査時点で課程途中であったので、第10回生までのうち修了した人数)。本調査では、この教育課程を修了したこの140名を調査対象とし、リカレント教育課程の所属機関である生涯学習センターの協力を得て、2013年3月に郵送法で調査を実施した。転居先不明で返送されたものが11通あったので、郵送数は129票。うち得られた回答数は74票。回収率は57.4%である。なお、入学したものの修了に至らなかった未修了生の退学理由については、本人の病気や進路変更のほか、課程途中で就職が決まった、家庭の事情(夫の転勤・介護など)、リカレント教育課程とのミスマッチなど、様々な理由が推測され、ここにも女性のライフコースが予定通りの一直線には行かない現状がうかがわれる。これらについては、今後の調査課題としたい。

調査対象者 日本女子大学リカレント教育課程修了生(第1回生～第10回生)

調査時期 2013年3月

調査方法 郵送による調査票調査

主な調査項目 リカレント教育課程に入学するまでのキャリア・プロセス
リカレント教育課程入学後のキャリア・プロセス
リカレント教育課程経験について
再就職支援について

回答者数 2012年度までの修了生140名に配布(内転居先不明で11通が返送)
回収数 74票 (回収率57.4%)

日本女子大学 現代女性キャリア研究所

「女性のキャリア支援と大学の役割に関する調査」研究プロジェクト

調査チーム

大沢真知子 (日本女子大学人間社会学部・研究代表)
岩田正美 (日本女子大学人間社会学部)
高頭麻子 (日本女子大学文学部)
三具淳子 (日本女子大学現代女性キャリア研究所・研究員)
杉浦浩美 (日本女子大学現代女性キャリア研究所・研究員)
仲田周子 (日本女子大学現代女性キャリア研究所・研究員)
榊原(関) 圭子 (日本女子大学現代女性キャリア研究所・研究員)
盧回男 (日本女子大学現代女性キャリア研究所・研究員)
御手洗由佳 (日本女子大学現代女性キャリア研究所・RA 研究員)
斎藤真由子 (日本女子大学現代女性キャリア研究所・RA 研究員)

プロジェクトメンバー

大沢真知子 (日本女子大学人間社会学部・研究代表)
高頭麻子 (日本女子大学文学部)
永井暁子 (日本女子大学人間社会学部)
原ひろみ (日本女子大学家政学部)
鈴木陽子 (三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング)
三具淳子 (日本女子大学現代女性キャリア研究所)
杉浦浩美 (日本女子大学現代女性キャリア研究所)

調査協力

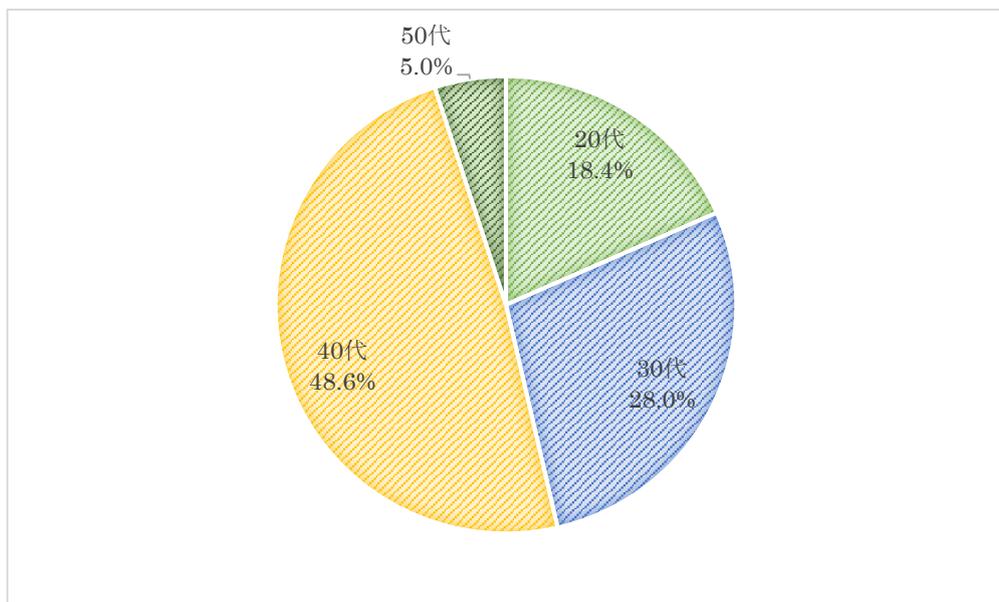
上山絵美子 (生涯学習センターリカレント教育課程)
植竹紀子 (日本女子大学現代女性キャリア研究所)
塩澤容子 (日本女子大学現代女性キャリア研究所)

「女性のキャリア支援と大学の役割に関する調査」は、文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」における「女性のキャリア支援と大学の役割についての総合的研究」の第2テーマ「大学における女性の再就職支援プログラムの開発研究」(研究代表者：大沢真知子)の一環として実施されたものである。

以下、リカレント教育課程のまとめによる 2013 年 4 月入学者を含めた 282 名の受講生のデータである。(http://www5.jwu.ac.jp/gp/recurrent/about.html#student. 2013. 6.4 アクセス)。

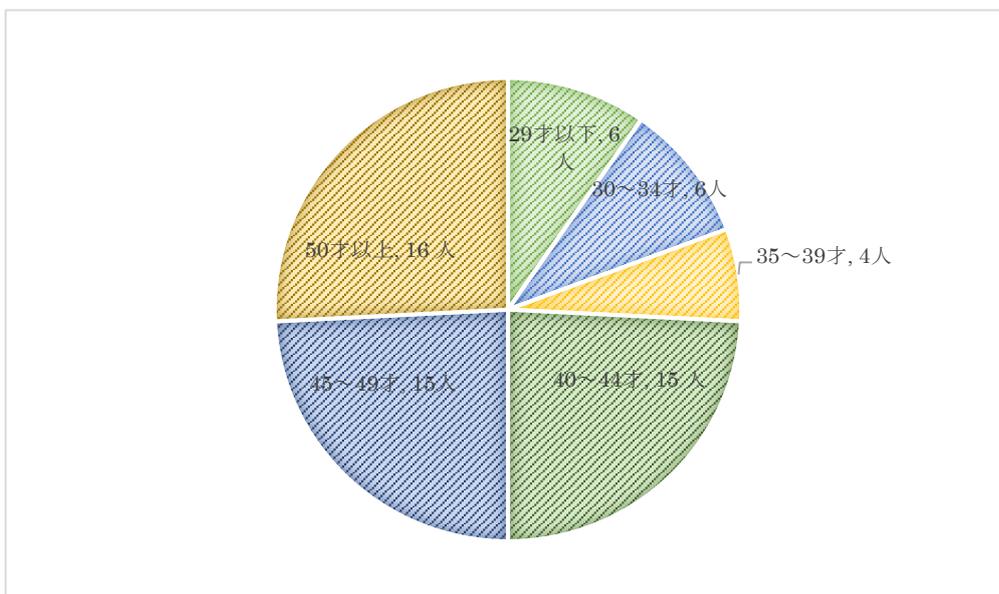
入学時点での年齢は、40代が半数近くを占めており、入学者平均年齢は 38.5 歳となっている。

図 1 リカレント受講生の入学時の年齢層(2013 年 4 月入学者を含む 282 名のデータ)



なお、本調査の回答者の年齢は以下の通りである。

図 2 年齢(n=62) (無回答 12 人を除く)

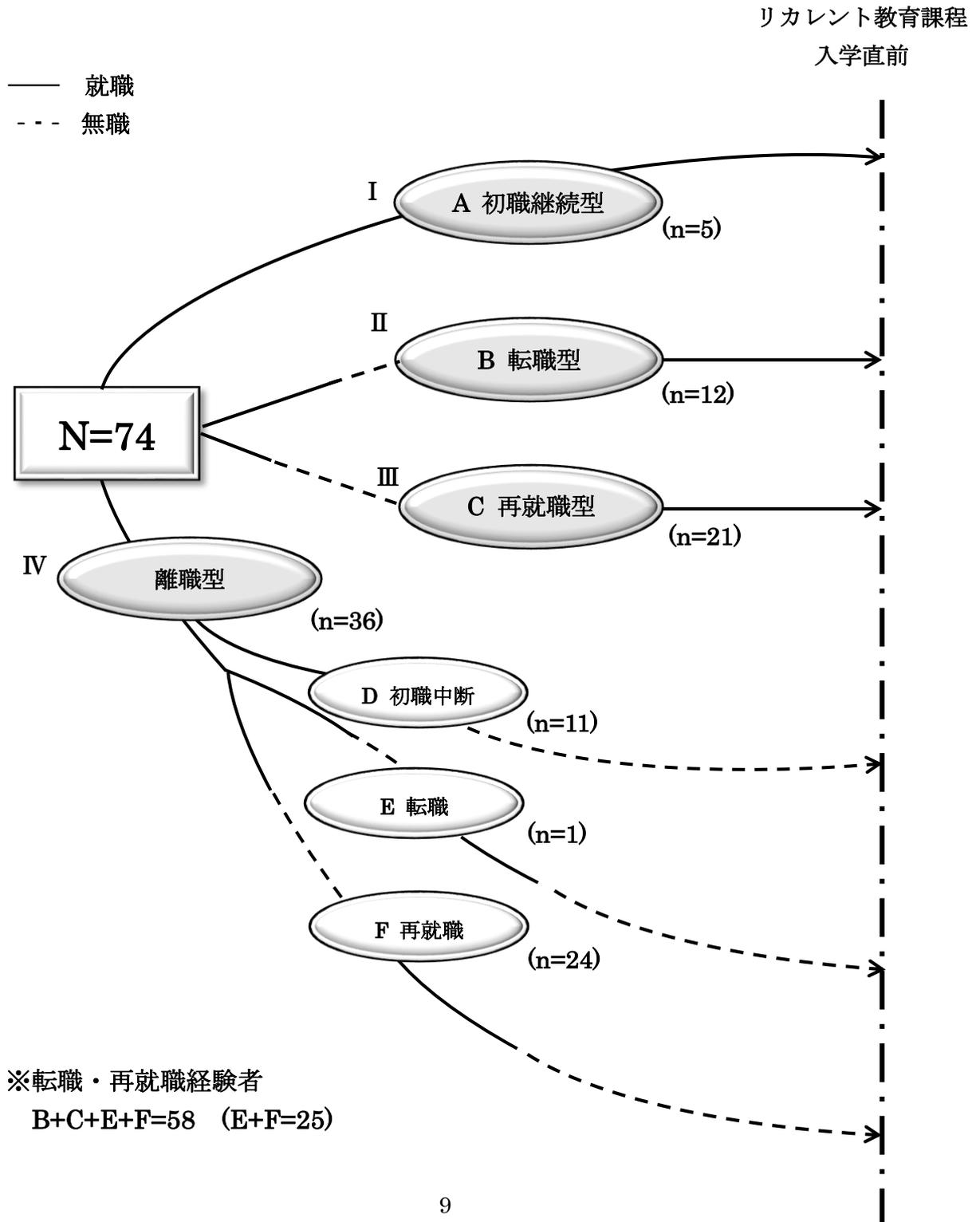


【註】(1) 2012 年に取り上げられたメディアとして、「読売新聞」(9 月掲載)、『AERA』(11 月掲載)、「タ刊フジ」(10 月掲載)、大田区男女平等推進課季刊誌「パステル」(2012 冬号掲載)、「日本経済新聞」(12 月掲載)、『GRAZIA』(2 月掲載)、フジテレビ「スーパーニュース」(2 月放送)などのメディアの取材を受けた。

4. 主な調査結果

リカレント教育課程に集ってくる女性たちはどのようなキャリア・プロセスをたどり、どのような就労意欲をもっているのだろうか。以下が、74人のキャリアの軌跡である。

図3 リカレント教育課程入学までのキャリア・プロセス (Q1)



(1) 初職について

大学卒業後、初めて就いた職業(=初職)について、尋ねた。

図4 初職の勤務形態(N=74) (Q2)

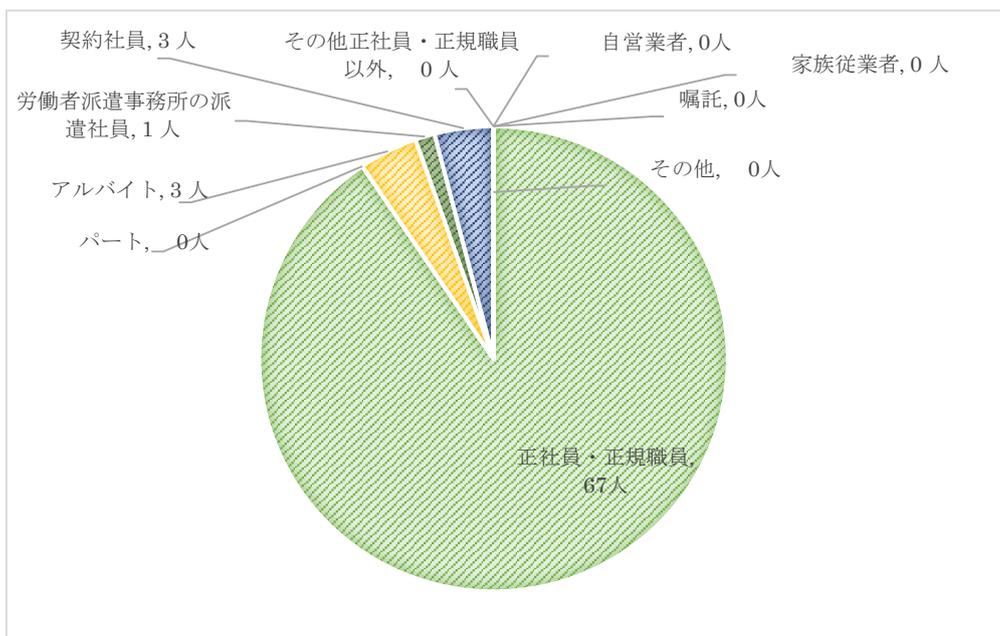


図5 初職の企業規模(N=74) (Q3)

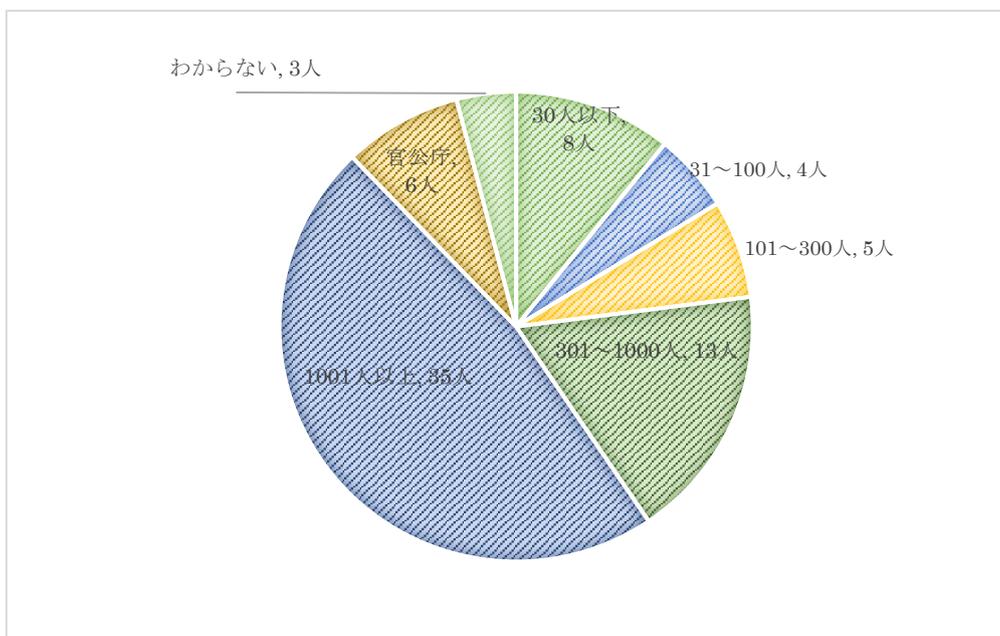


図6 初職の業種(N=74) (Q4)

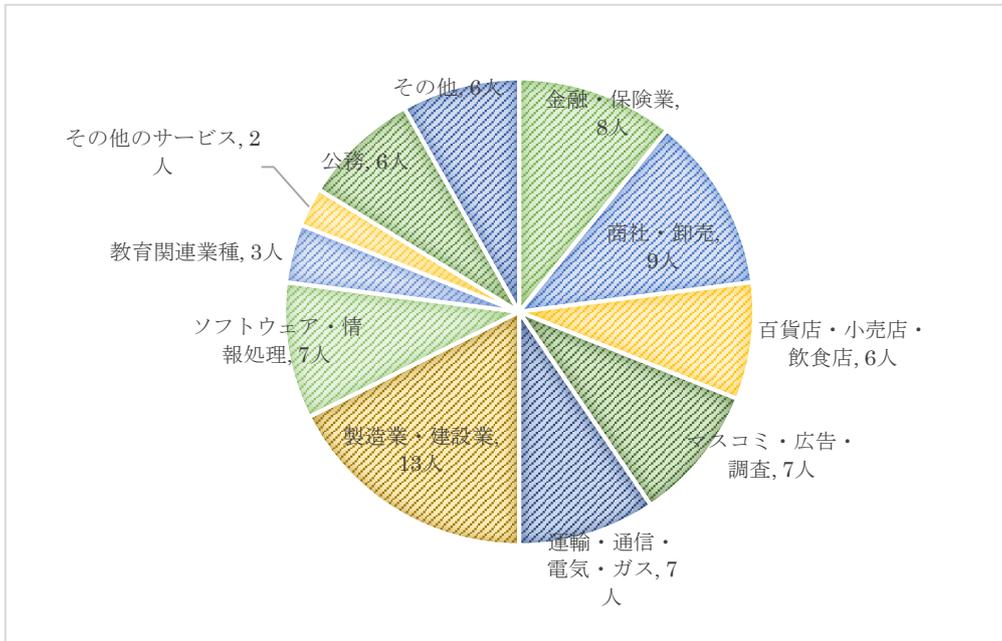


図7 初職の仕事内容(N=74) (Q5)

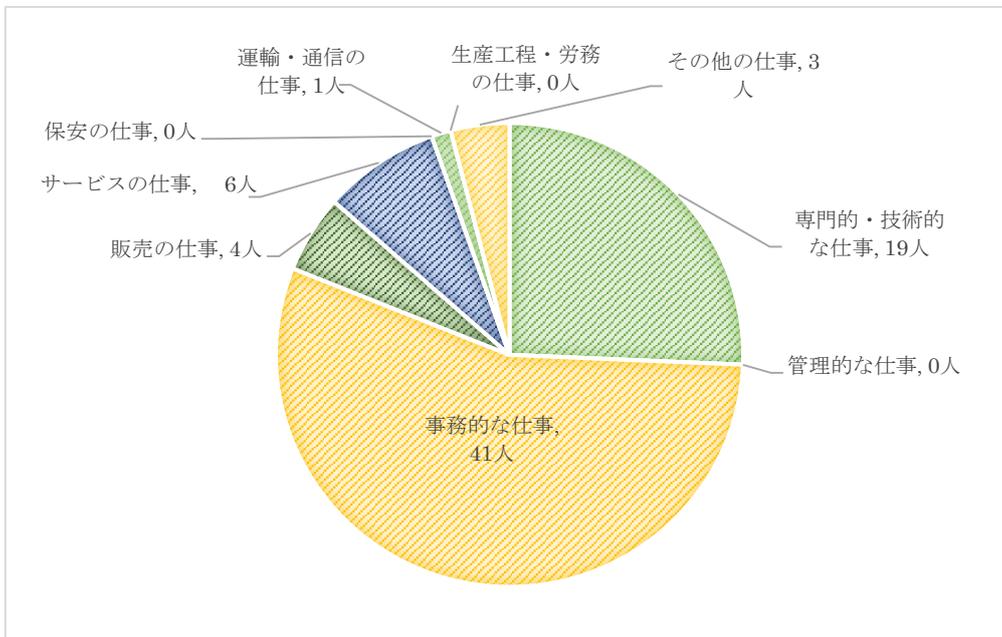


図8 初職に就いた時期(n=70, 無回答4人を除く) (Q6)

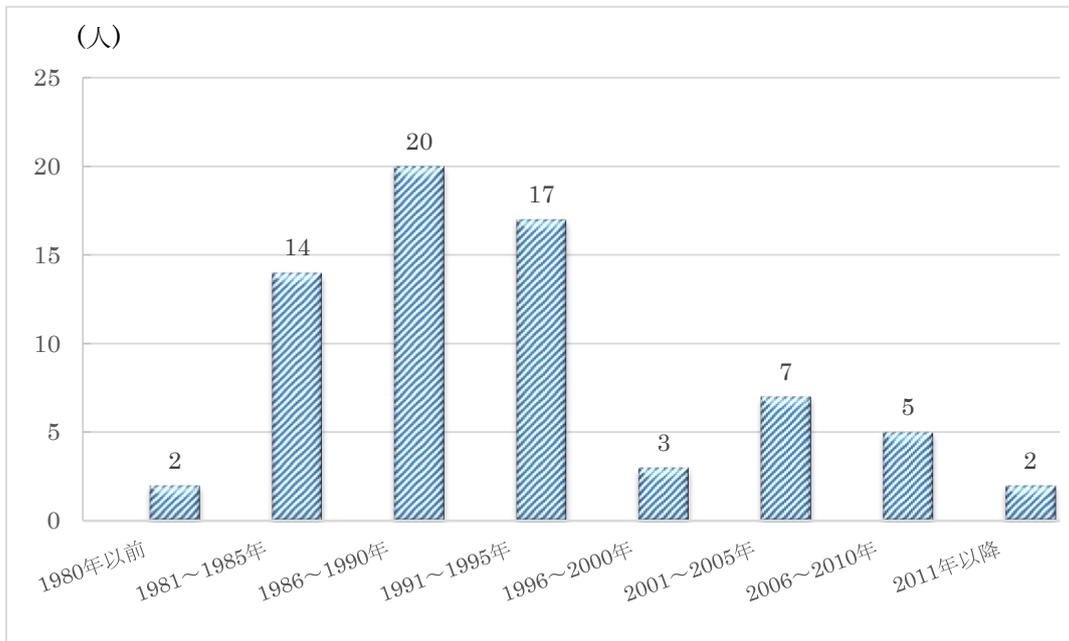


図9 初職の就職活動において最も重視した点(n=73, 無回答2人を除く) (Q7)

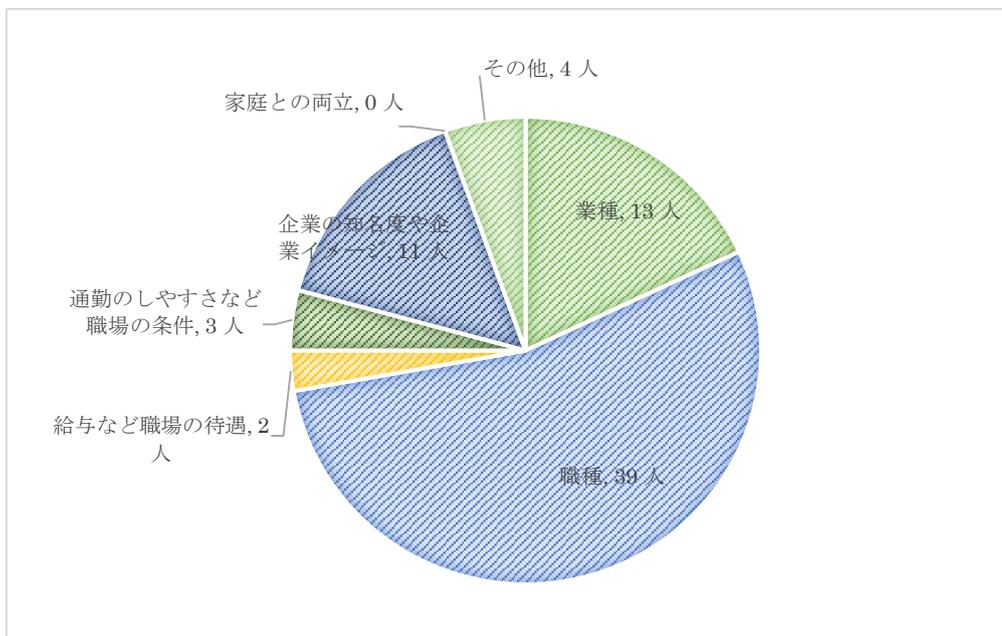


図 10 希望通りの就職であったか(n=73) (無回答 1 人を除く) (Q8)

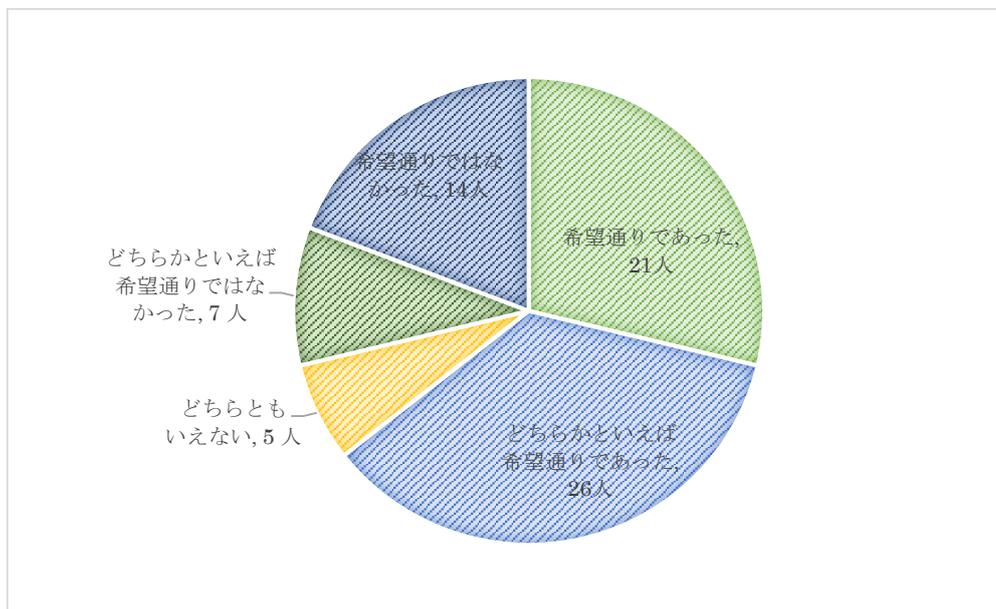


表 1 初職についての満足度 (N=74) (Q9)

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	無回答
やりがいなど仕事の内容	26	21	11	12	4	
雇用の安定性	38	12	15	6	3	
給与	25	16	16	13	4	
労働時間	15	23	12	14	10	
昇進・処遇	10	11	26	18	9	
評価システム	7	15	34	9	9	
研修などの教育訓練	26	13	22	6	7	
職場の人間関係・コミュニケーション	18	34	14	4	4	
自宅と職場の距離	32	19	15	4	4	
仕事と家庭の両立	13	8	34	10	5	4

図 11 初職退職時期 (n=62) (無回答 10 人除く) (Q10)

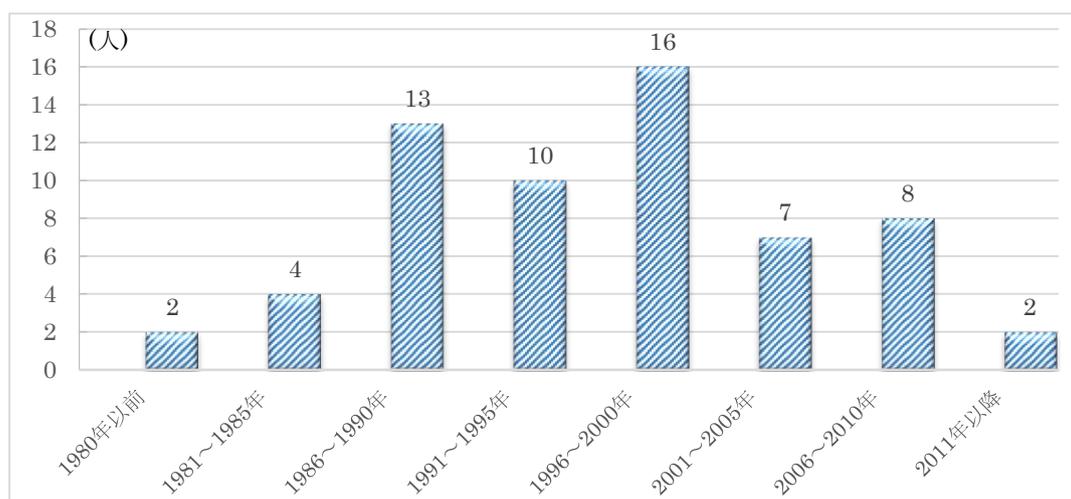
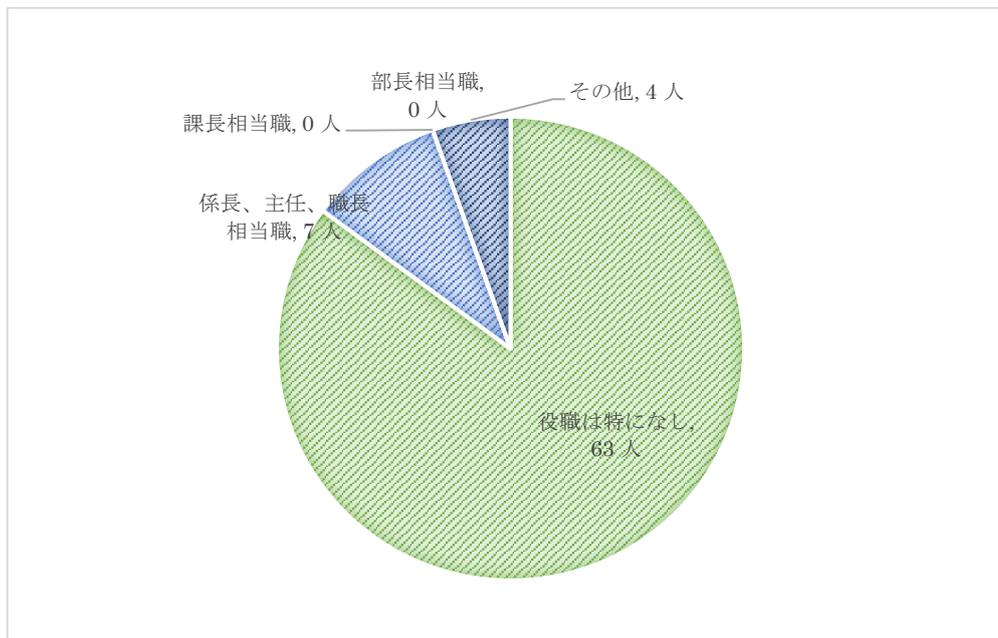


図 12 初職退職時・入学時[※]の職務上の地位 (N=74) (Q11)



※入学時：入学後も初職継続の場合

図 13 初職を辞めた理由 1 位 (n=72) (Q12)

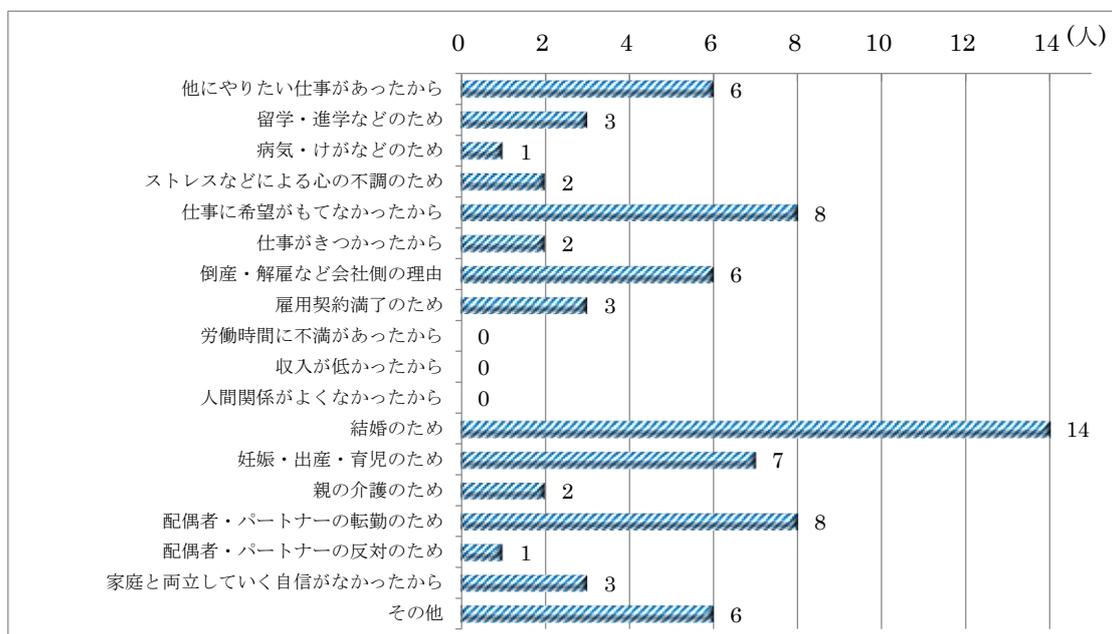
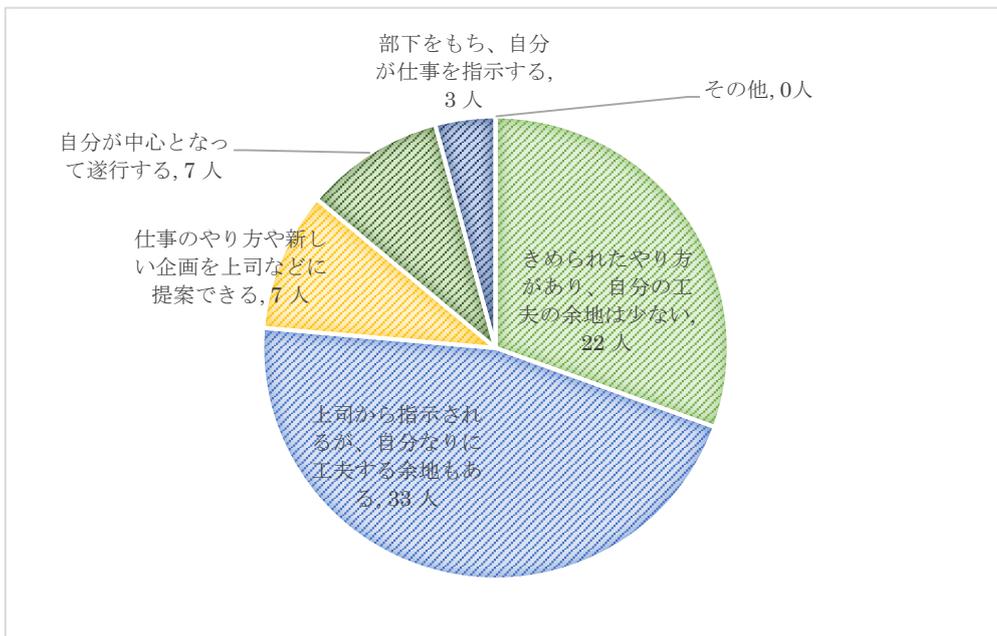


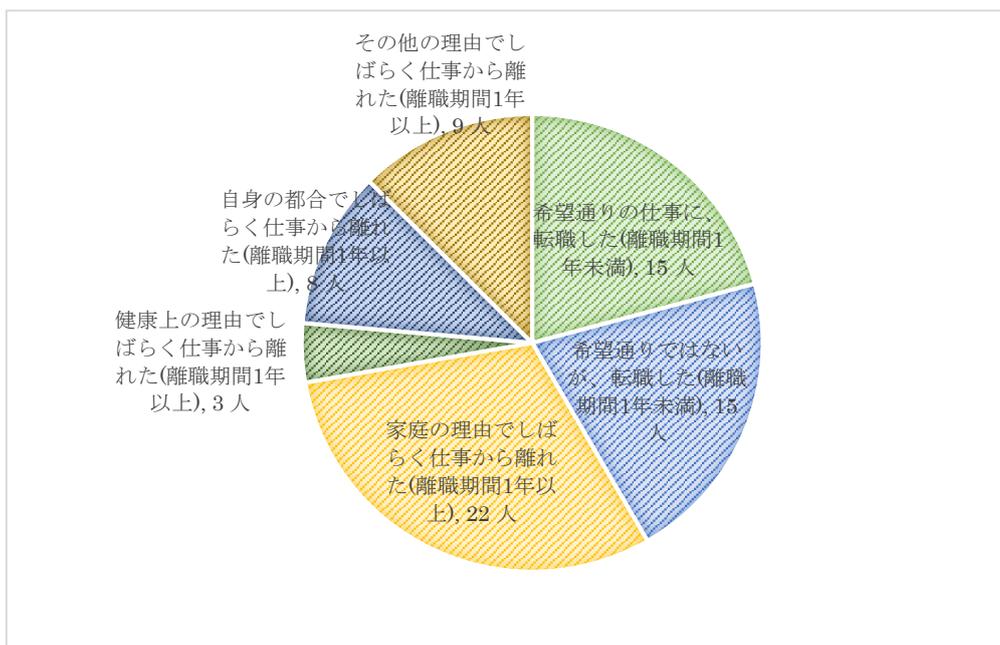
図 14 初職を辞めるころの仕事のやり方(n=72) (Q13)



(2) 初職を退職してからリカレント教育課程入学まで

以下、リカレント教育課程入学後に初職を辞めた人も含め、初職退職後の1年間の状況である。

図 15 初職退職後の1年間の状況(n=72) (Q14)



以下は、初職退職後からリカレント教育課程入学までの転職、再就職経験や、離職期間の過ごし方等について尋ねたものである。

図 16 転職・再就職回数(n=56) (無回答 2 人を除く) (Q15)

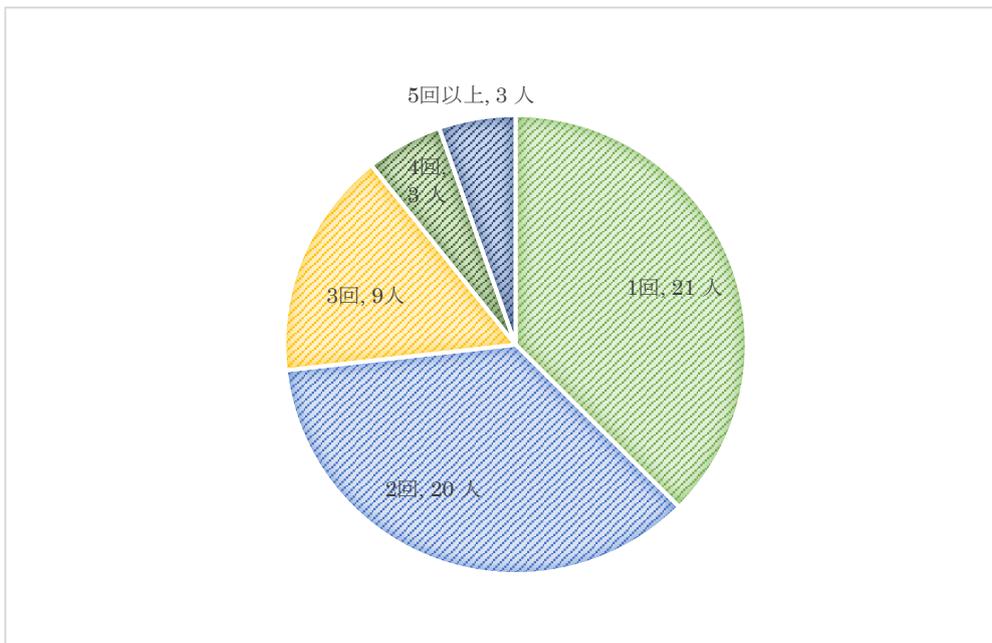


図 17 転職・再就職の評価(n=58) (Q16)

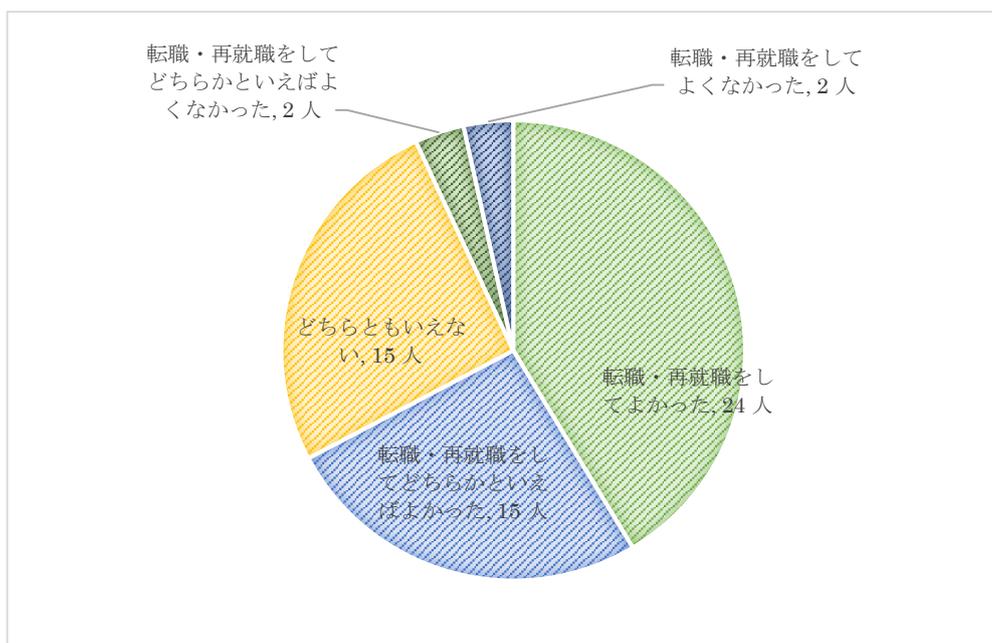


図 18 リカレント教育課程入学以前のもっとも長い離職期間(n=52) (Q17)

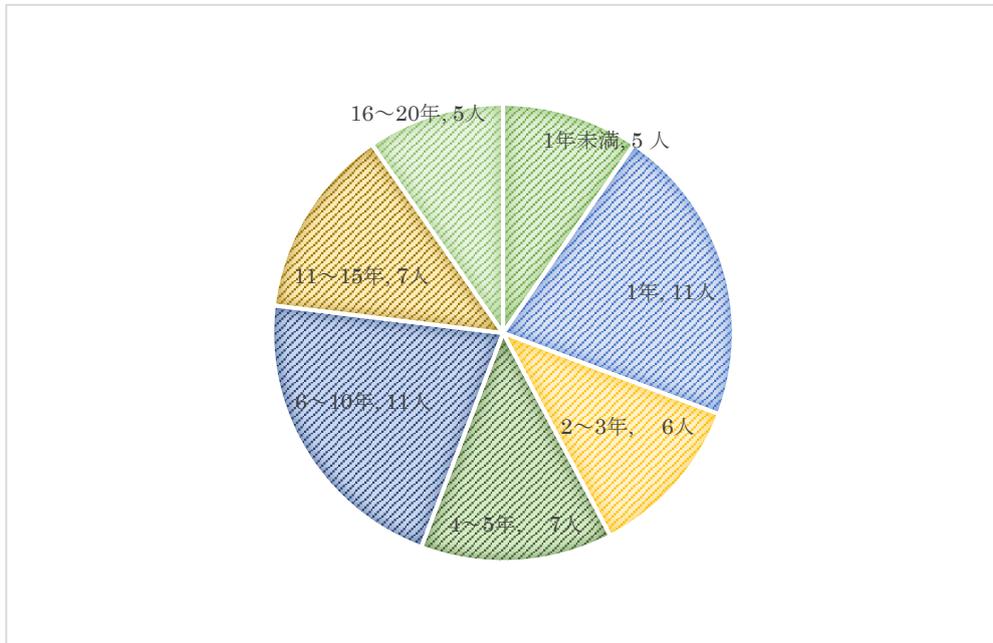


図 19 離職期間の理由 1 位(n=52) (Q18)

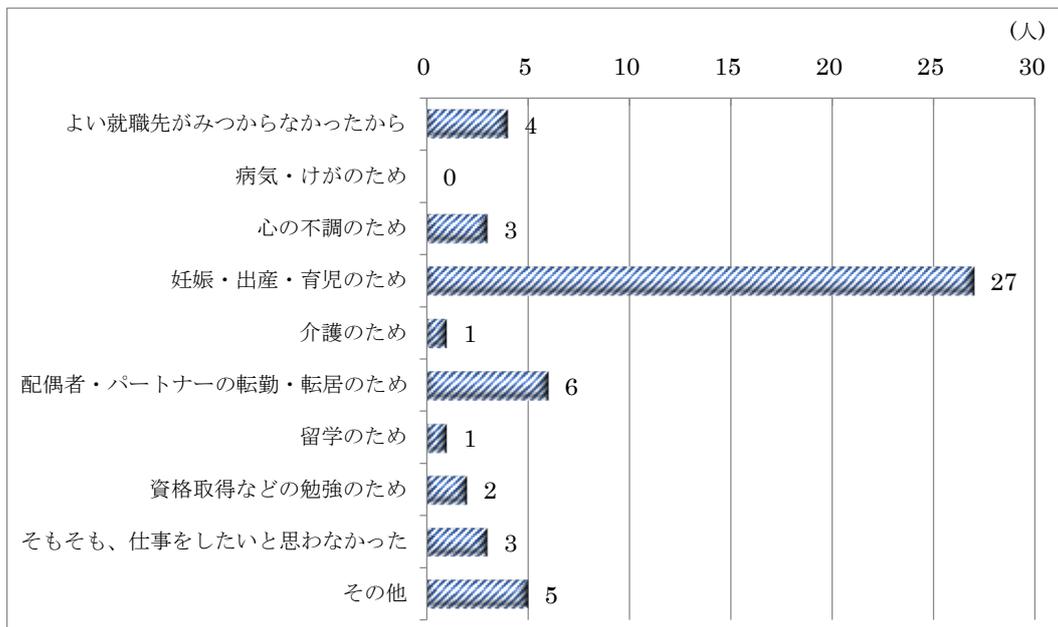
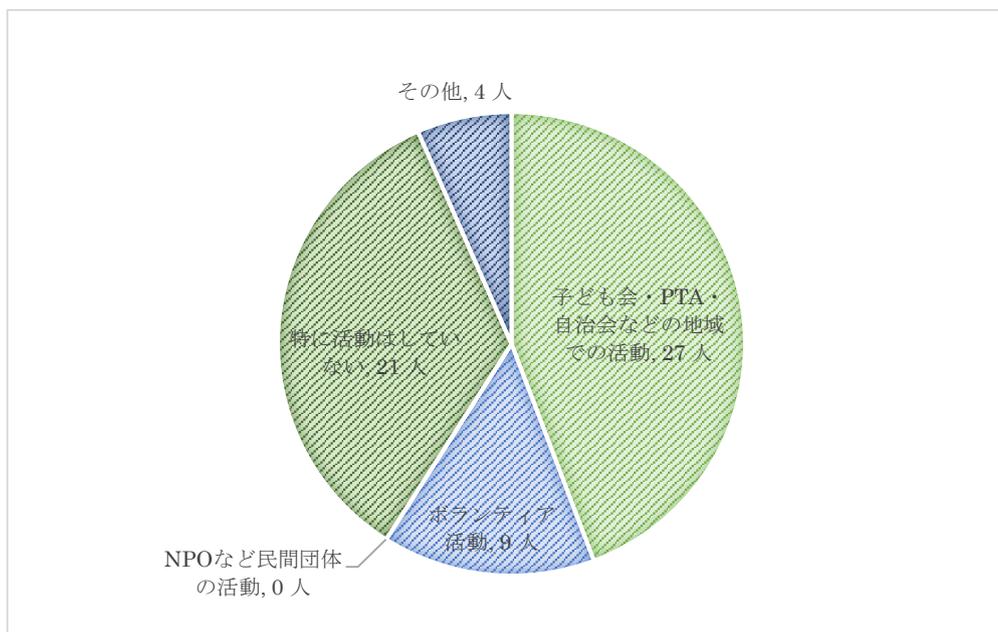


図 20 離職期間中の社会的な活動(n=52) (Q19)



(3) 直前職について

リカレント教育課程入学直前まで初職を継続していた人以外には、入学前に最後に就いていた仕事 (=直前職) について尋ねている。

図 21 直前職の就業形態(n=56) (無回答 2 人を除く) (Q20)

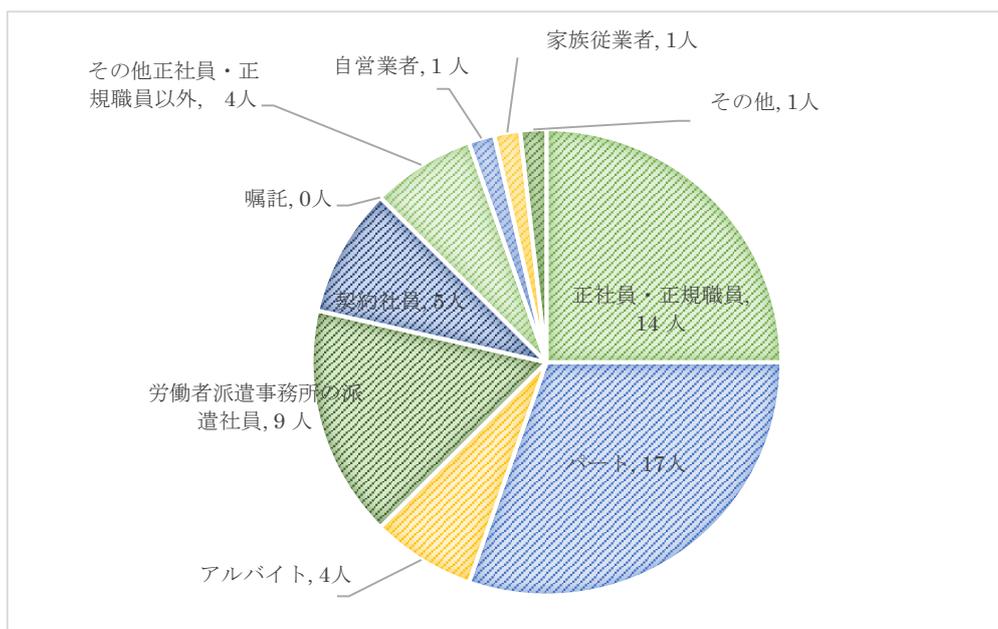


図 22 直前職の企業規模 (n=58) (Q21)

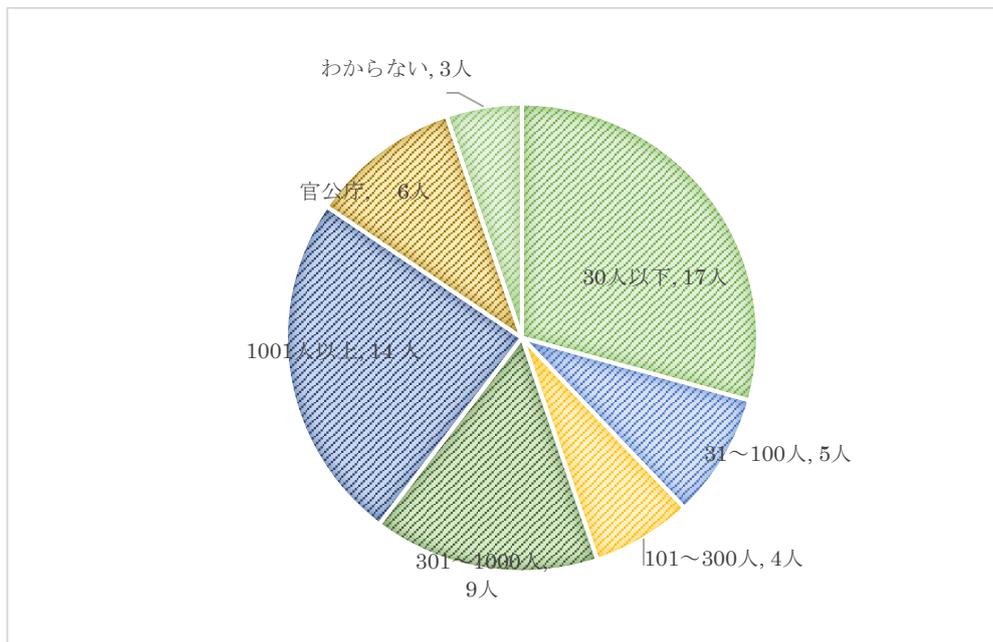


図 23 直前職の業種 (n=56) (無回答 2 人を除く) (Q22)

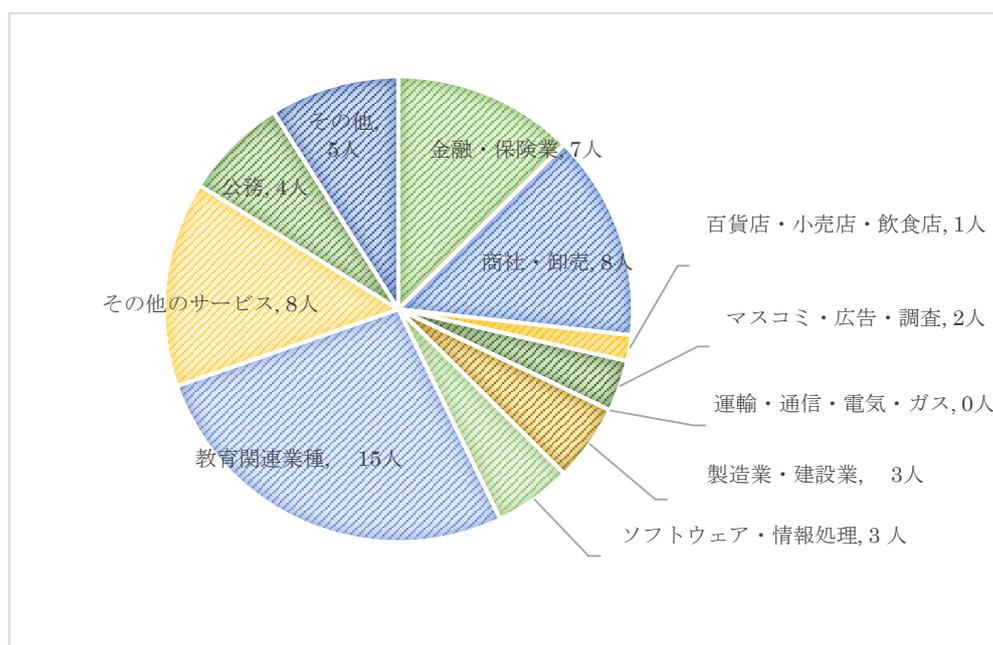


図 24 直前職の仕事内容 (n=57) (無回答 1 人を除く) (Q23)

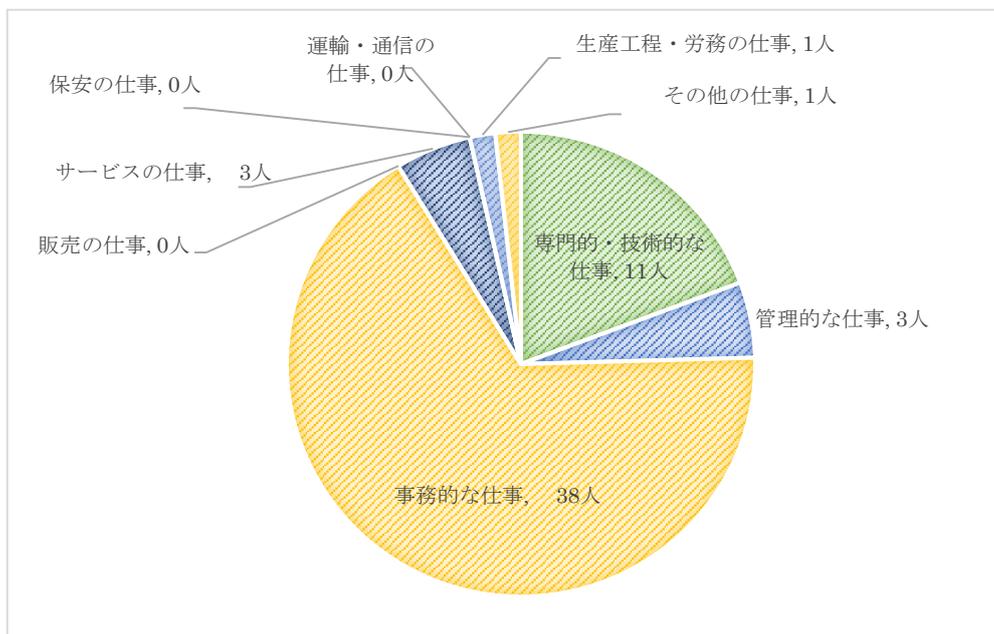


図 25 直前職に就いた時期 (n=51) (無回答 7 人を除く) (Q24)

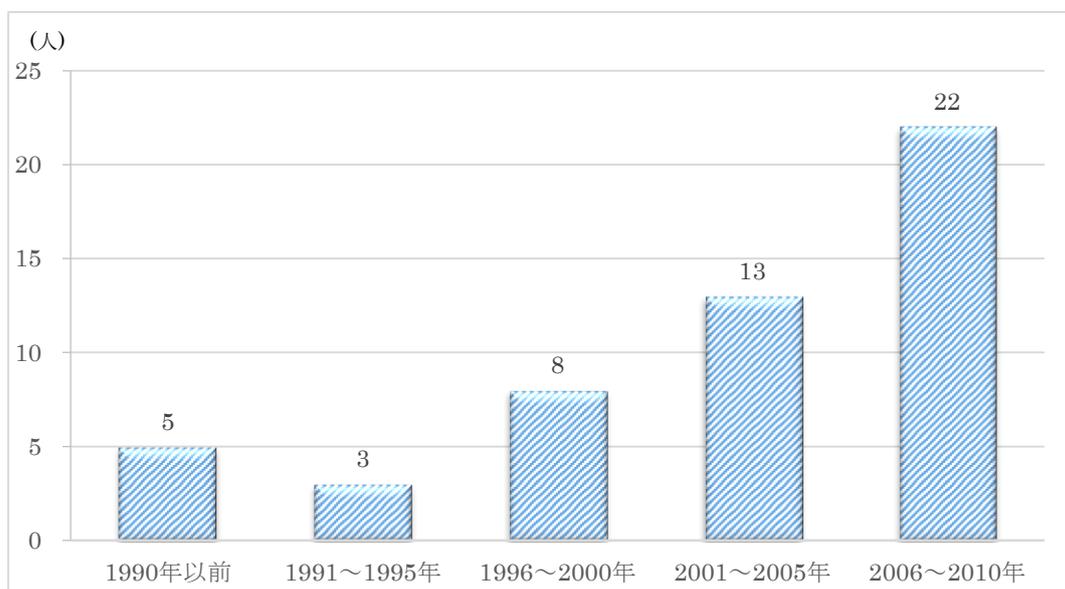


図 26 直前職の就職活動において最も重視した点 (n=56) (無回答 2 人を除く) (Q25)

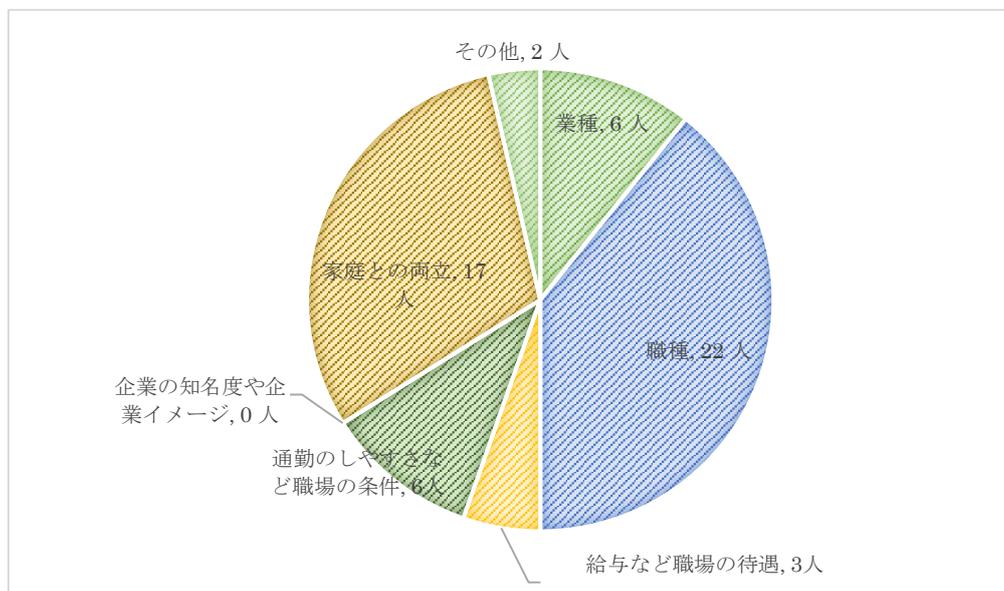


表 2 初職と直前職との変化 (n=58) (Q26)

	よくなった	どちらかといえばよくなった	どちらともいえない	どちらかといえば悪くなった	悪くなった	無回答
やりがいなど仕事の内容	9	11	17	11	10	
雇用の安定性	4	1	18	16	17	2
給与	5	5	17	8	22	1
労働時間	12	13	21	7	5	
昇進・処遇	1	6	20	9	22	
評価システム	1	1	36	4	16	
研修などの教育訓練	1	6	19	11	21	
職場の人間関係・コミュニケーション	3	11	32	8	3	1
自宅と職場の距離	16	12	20	4	5	1
仕事と家庭の両立	19	15	19	1	2	2

図 27 直前職退職時期 (n=48) (無回答 6 人を除く) (Q27)

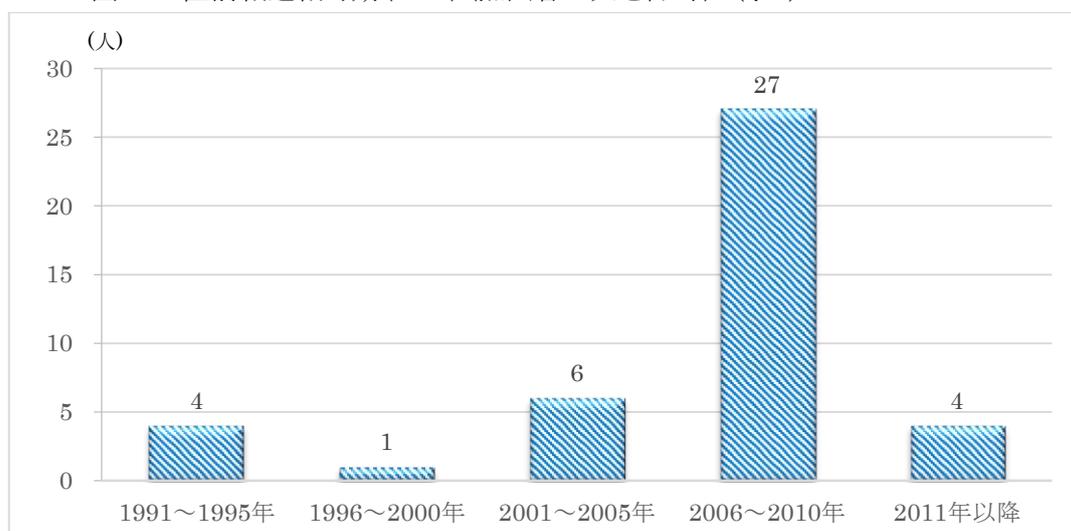


図 28 直前職退職時の地位 (n=58) (Q28)

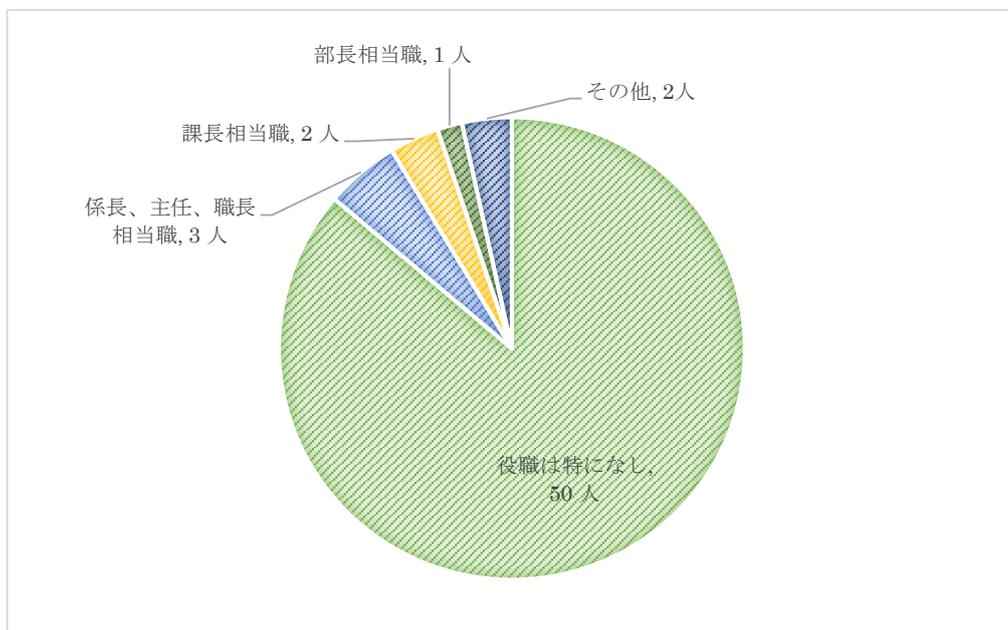


図 29 直前職の離職理由 1 位 (n=47) (特になし/無回答 1 人を除く) (Q29)

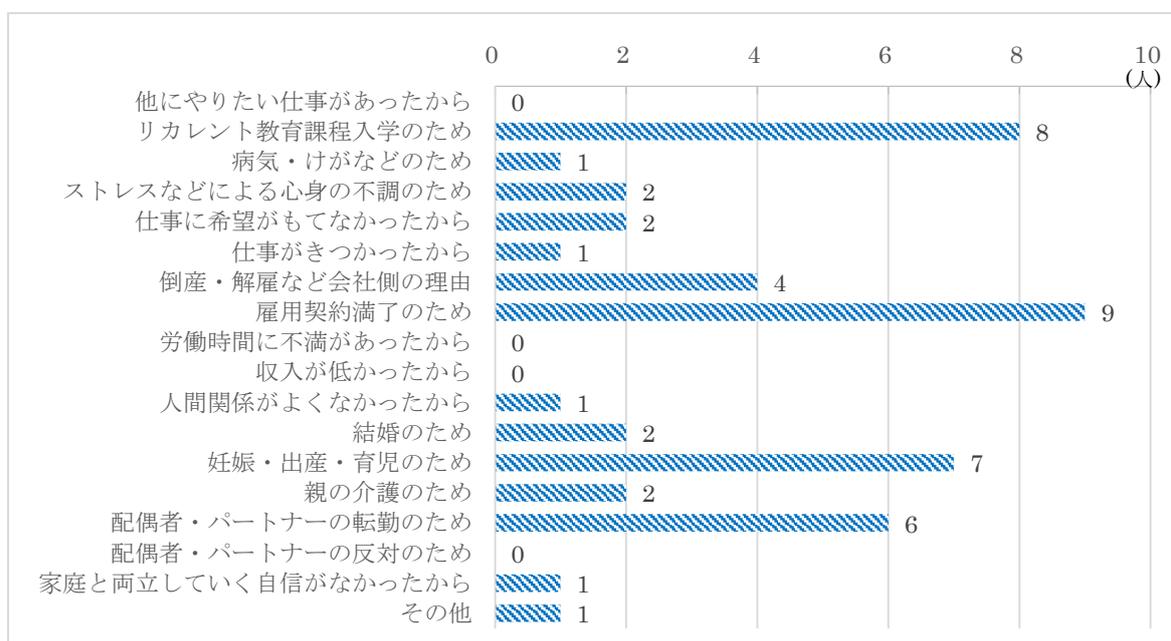
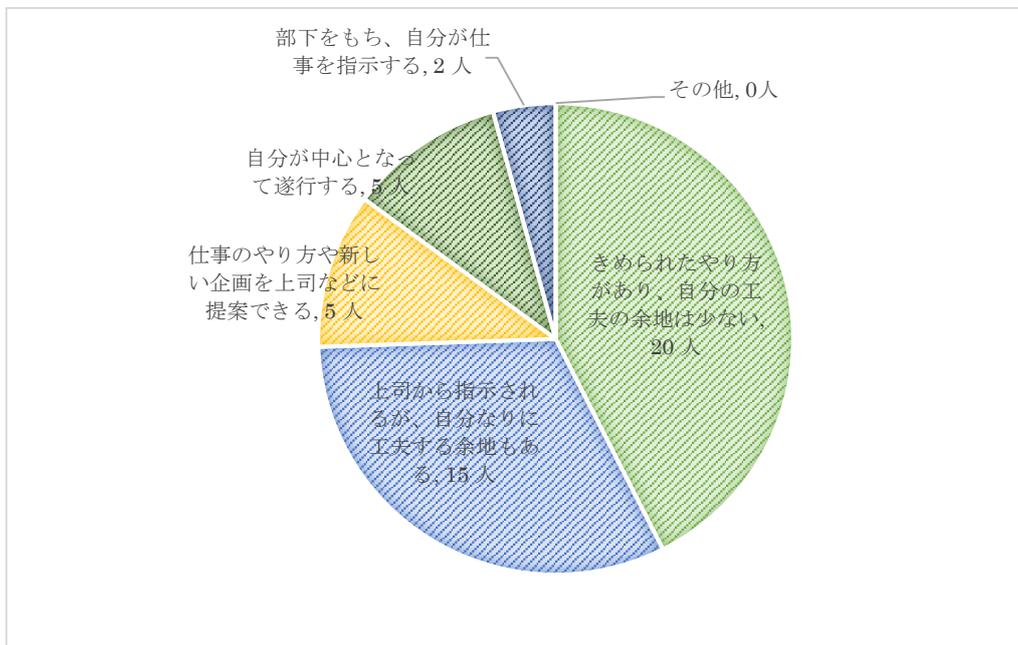


図 30 直前職を辞めるころの仕事のやり方(n=47) (無回答 1 人を除く) (Q30)



(4) 入学後職について

リカレント教育課程に入学後（修了後も含む）、最初に就いた仕事（＝入学後職）について尋ねた。

図 31 入学後職に就いた時期 (n=61) (無回答 1 人を除く) (Q31)

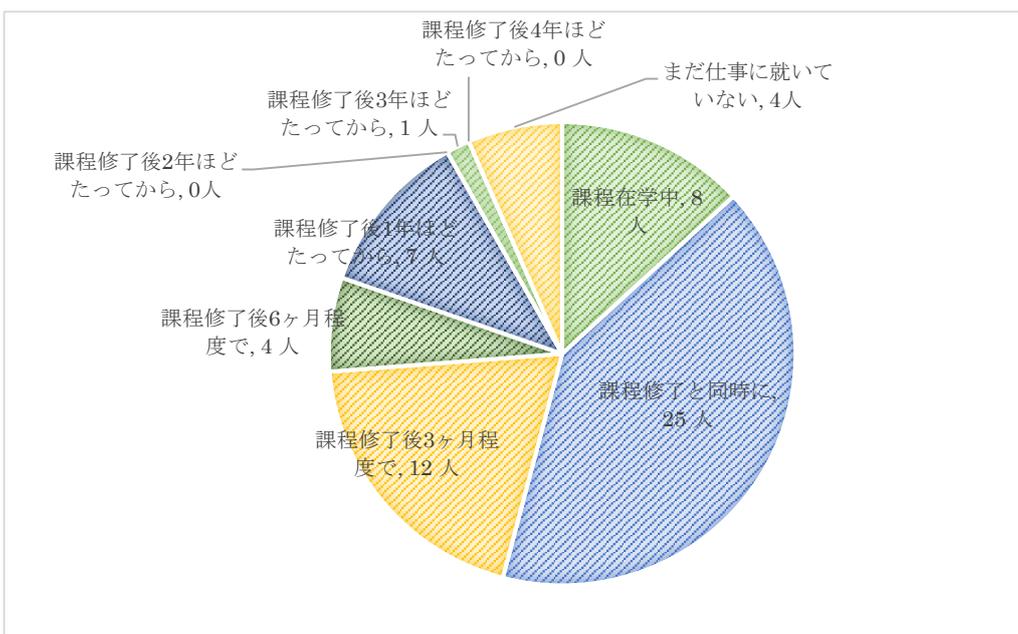


図 32 入学後就職経路 (n=58) (Q32)

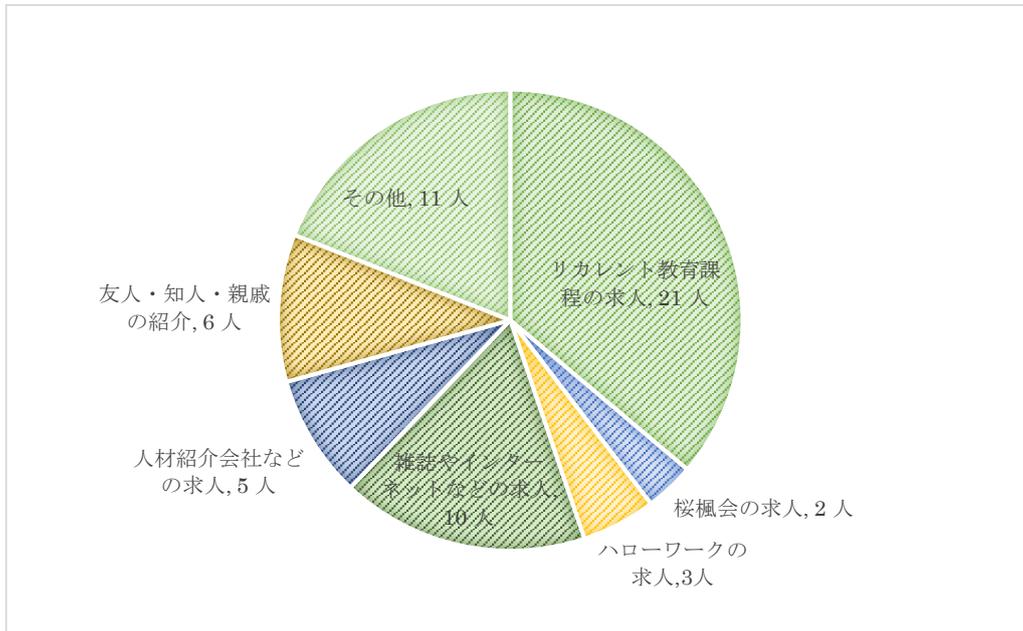


図 33 入学後職就業形態 (n=56) (無回答 2 人を除く) (Q33)

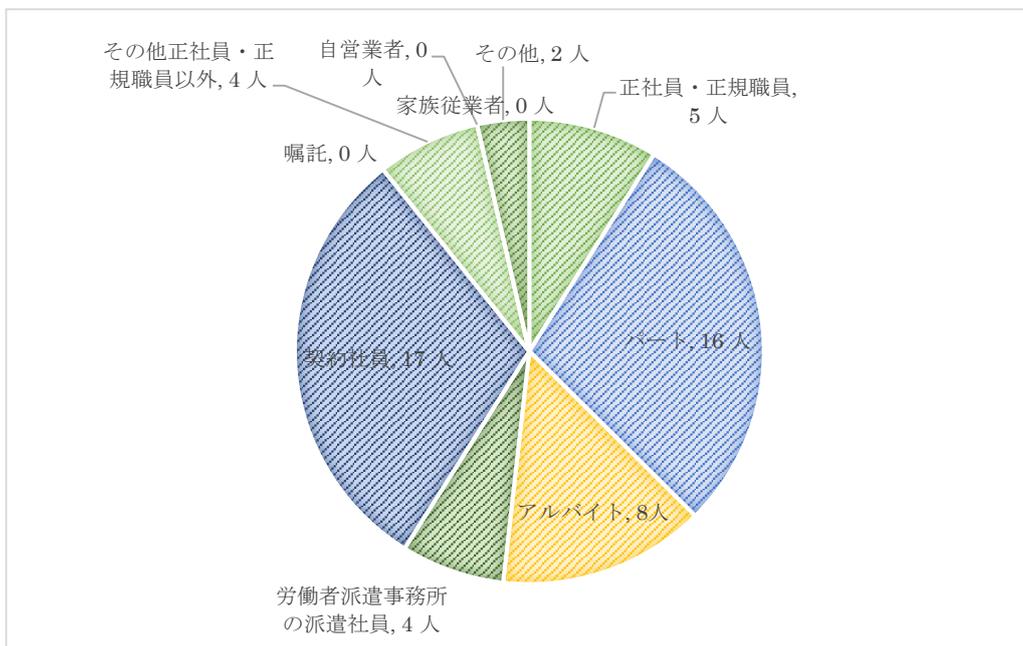


図 34 入学後職の企業全体の従業員数 (n=57) (無回答 1 人を除く) (Q34)

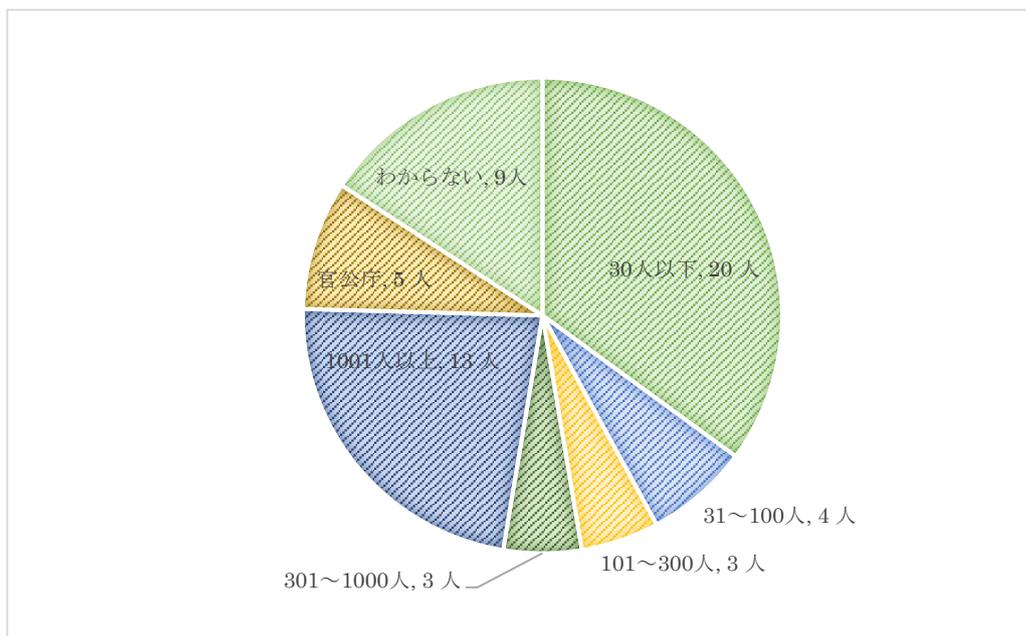


図 35 入学後職の業種 (n=56) (無回答 2 人を除く) (Q35)

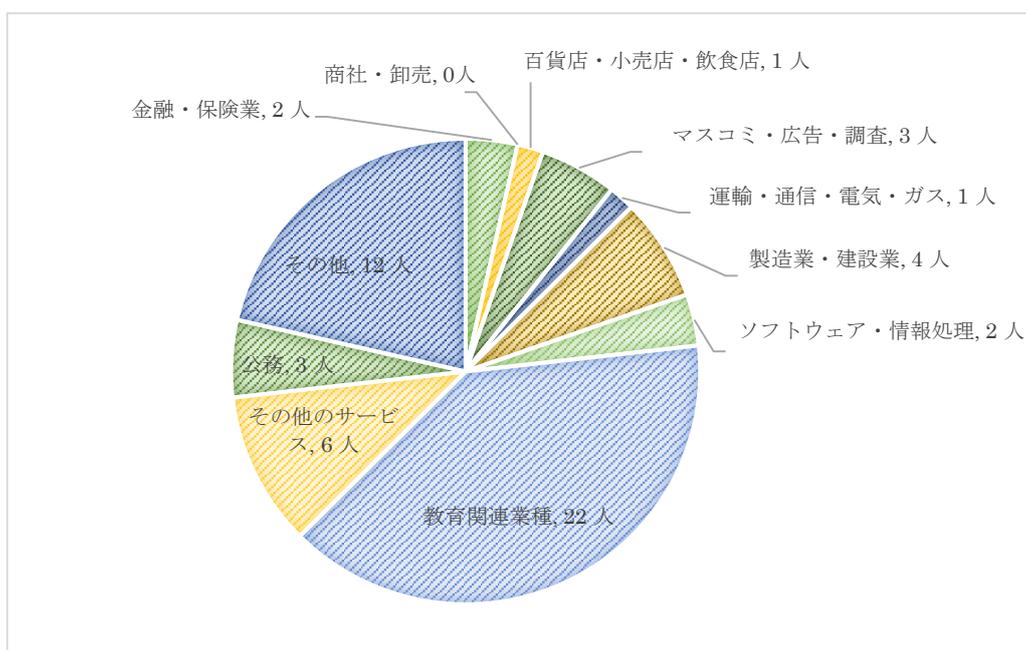


図 36 入学後職の仕事内容 (n=57) (無回答 1 人を除く) (Q36)

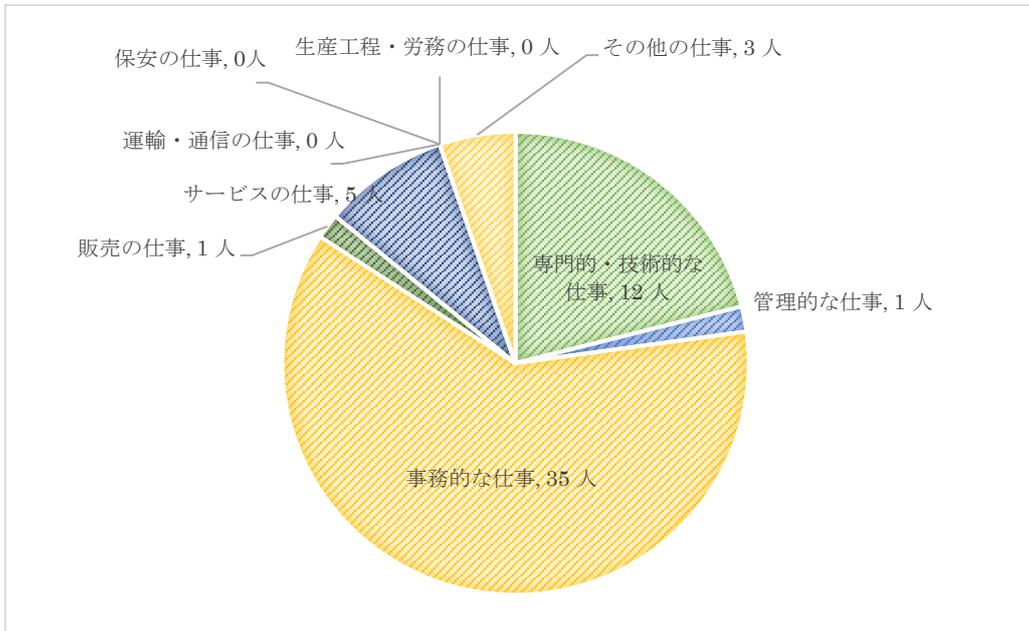


図 37 入学後職の就職活動において最も重視した点 (n=56) (無回答 2 人を除く) (Q37)

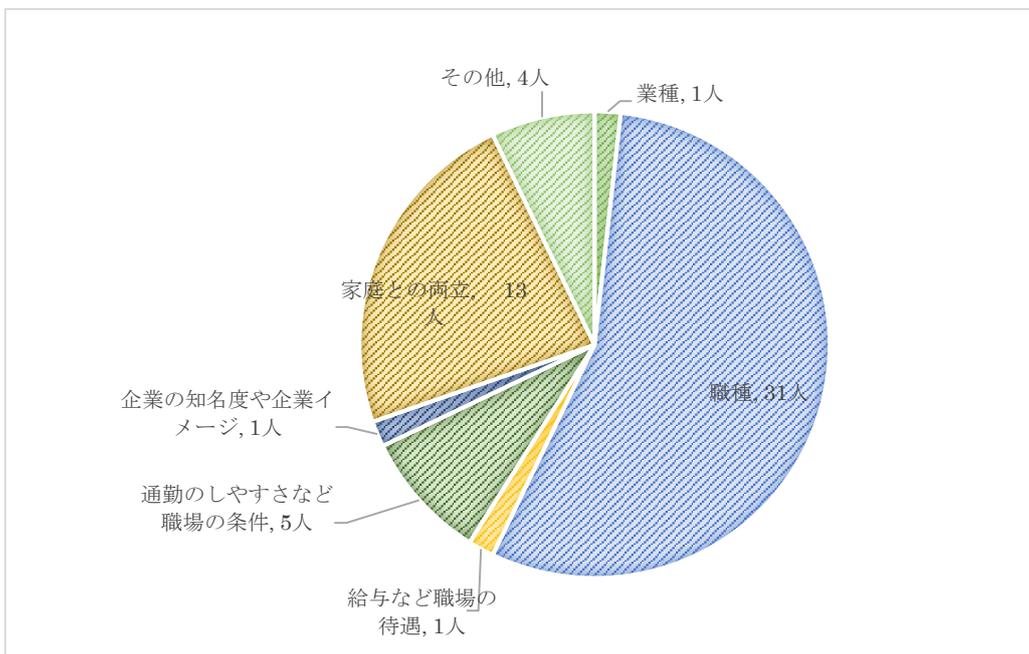


図 38 希望通りの就職ができたか(n=58) (Q38)

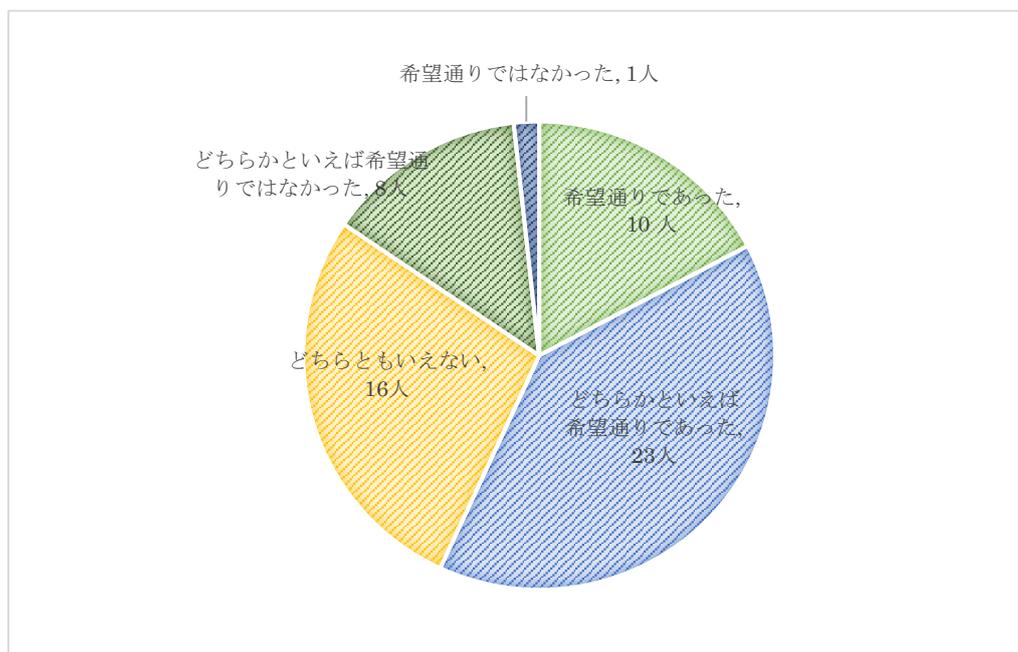


表 3 直前職と入学後職との変化(n=58) (Q39)

	よくなった	どちらかとい えばよくなった	どちらともい えない	どちらかとい えば悪くなった	悪くなった
やりがいなど仕事の内容	8	15	23	6	6
雇用の安定性	0	13	23	7	15
給与	4	6	13	10	25
労働時間	10	16	23	6	3
昇進・処遇	3	3	34	5	13
評価システム	3	5	34	4	12
研修などの教育訓練	4	8	26	7	13
職場の人間関係・コミュニケーション	12	9	26	4	7
自宅と職場の距離	14	7	21	10	6
仕事と家庭の両立	17	9	25	3	4

図 39 入学後職の継続有無 (n=69) (無回答 1 人を除く) (Q40-1)

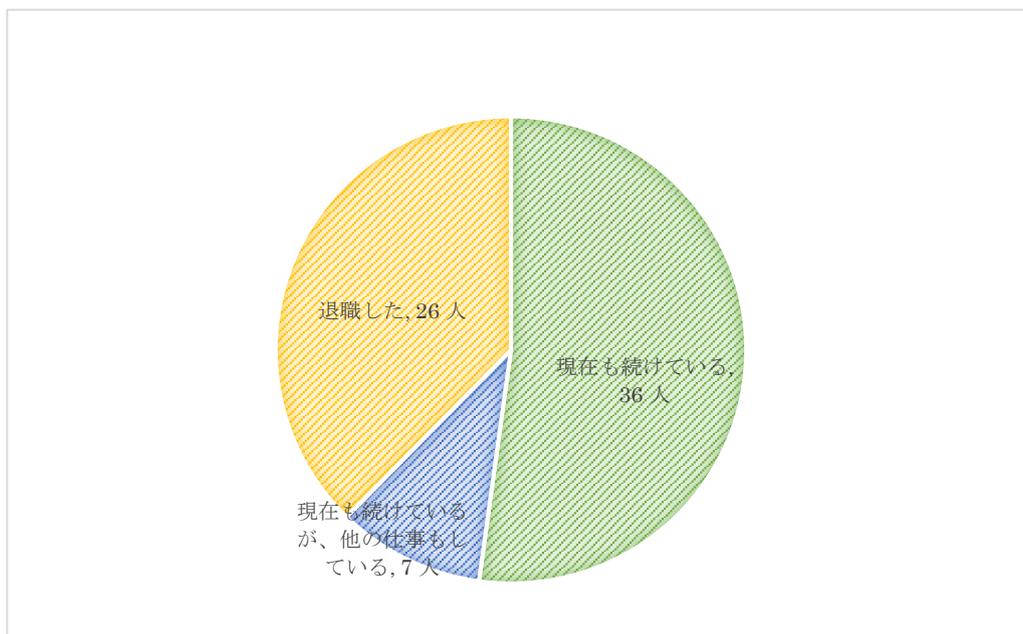


図 40 入学後職を退職した人の働き方 (n=23) (無回答 3 人を除く) (Q40-3)

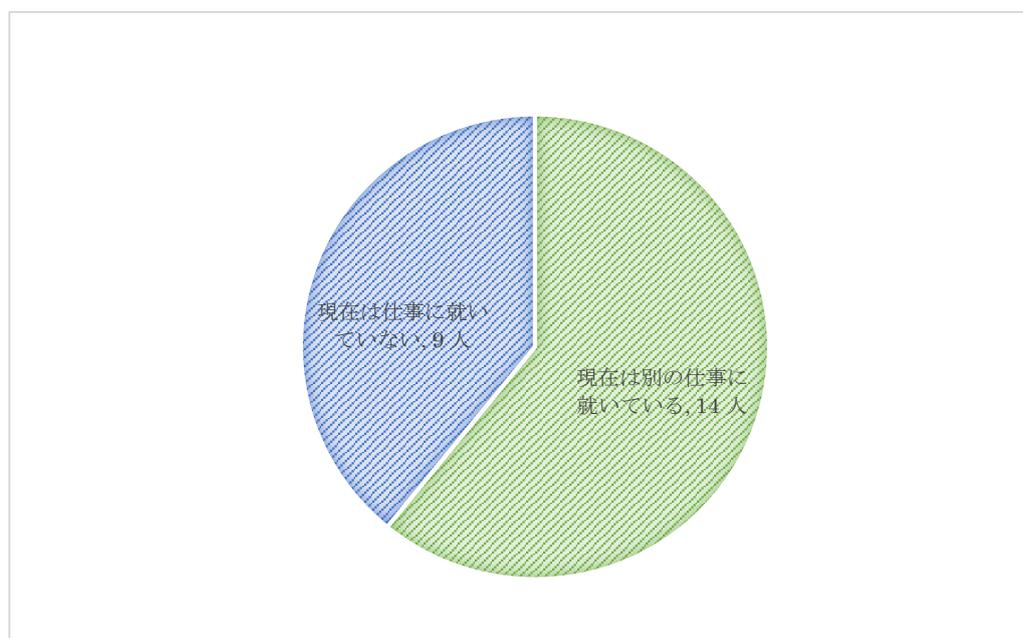


図 41 入学後職の職務上の地位 (n=70) (Q41)

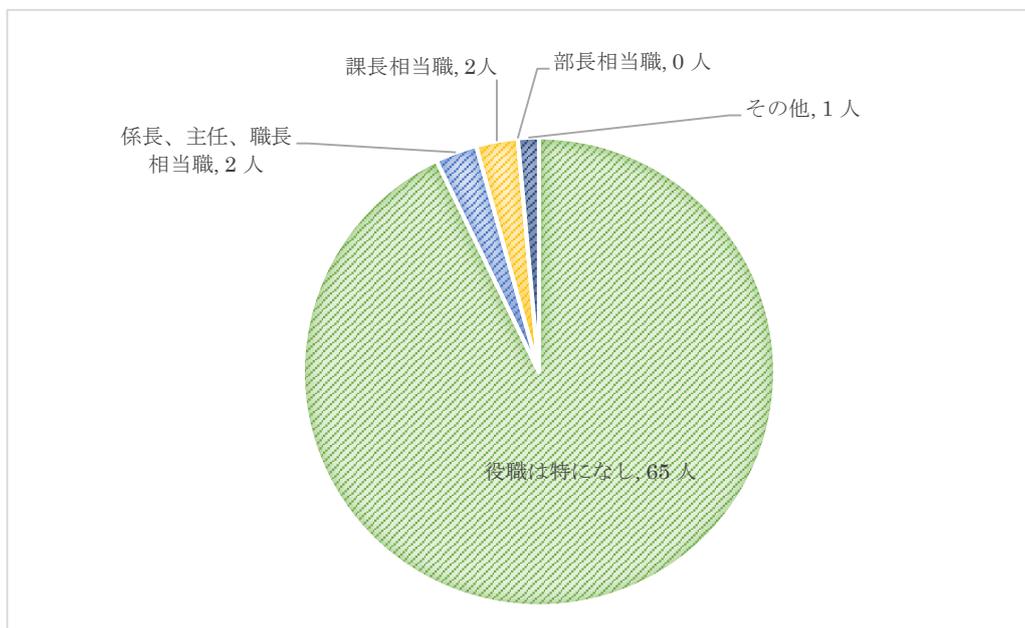


図 42 入学後職離職理由 (n=25) (特になし/無回答 1 人を除く) (Q42)

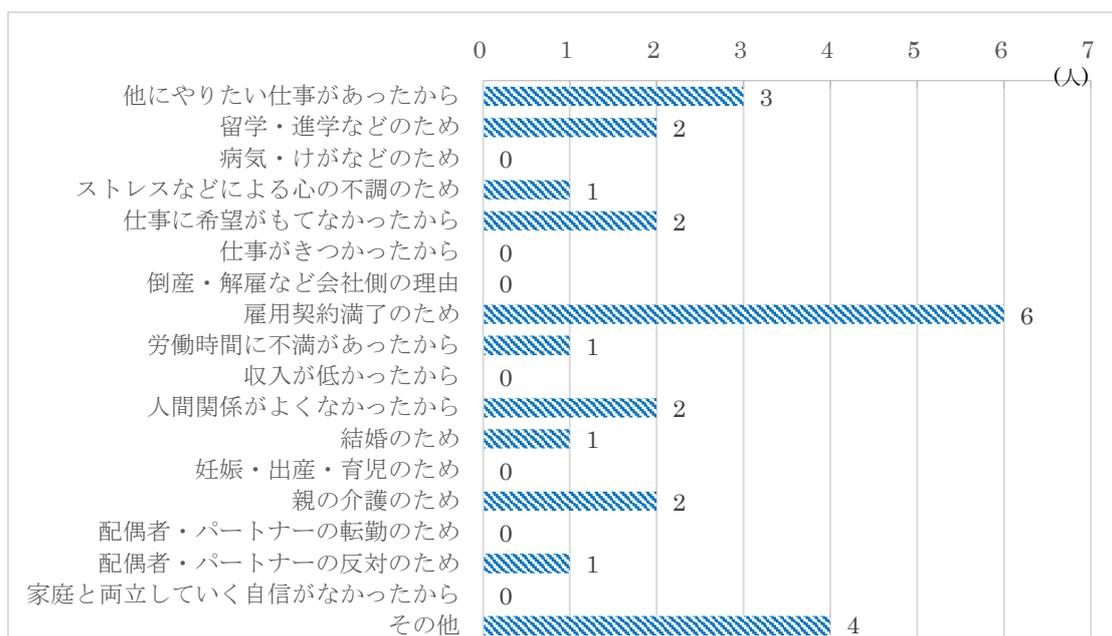
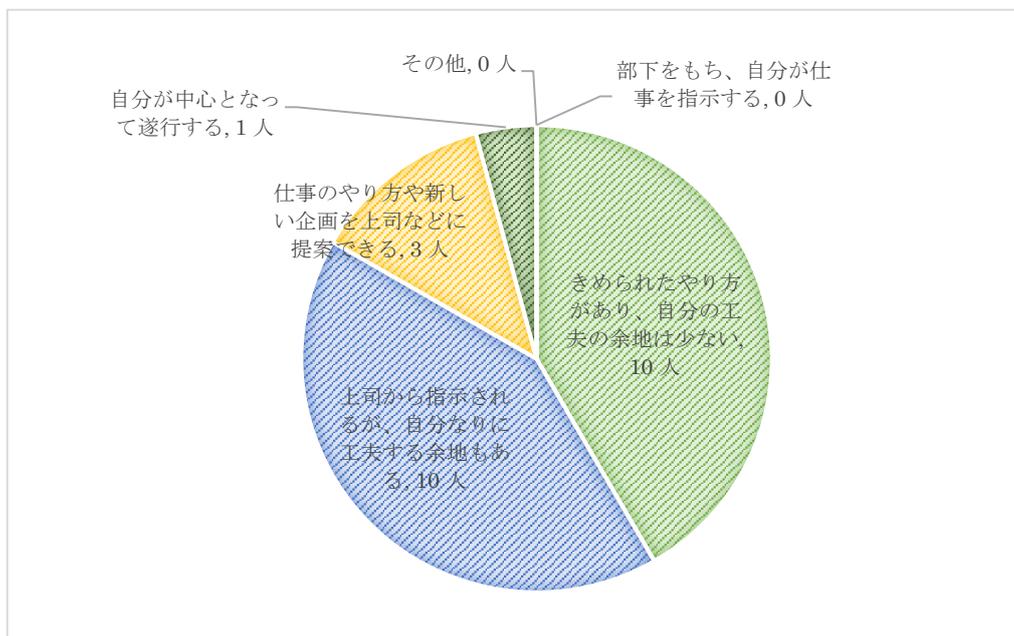


図 43 入学後職を辞めるころの仕事のやり方 (n=24) (無回答 2 人を除く) (Q43)



(5) 現職について

入学後職とは別に「他の仕事もしている」、もしくは、入学後職を退職後「別の仕事に就いている」人に、現在の仕事 (= 現職) について尋ねた。

図 44 現職の就職経路 (n=19) (無回答 2 人を除く) (Q44-1)

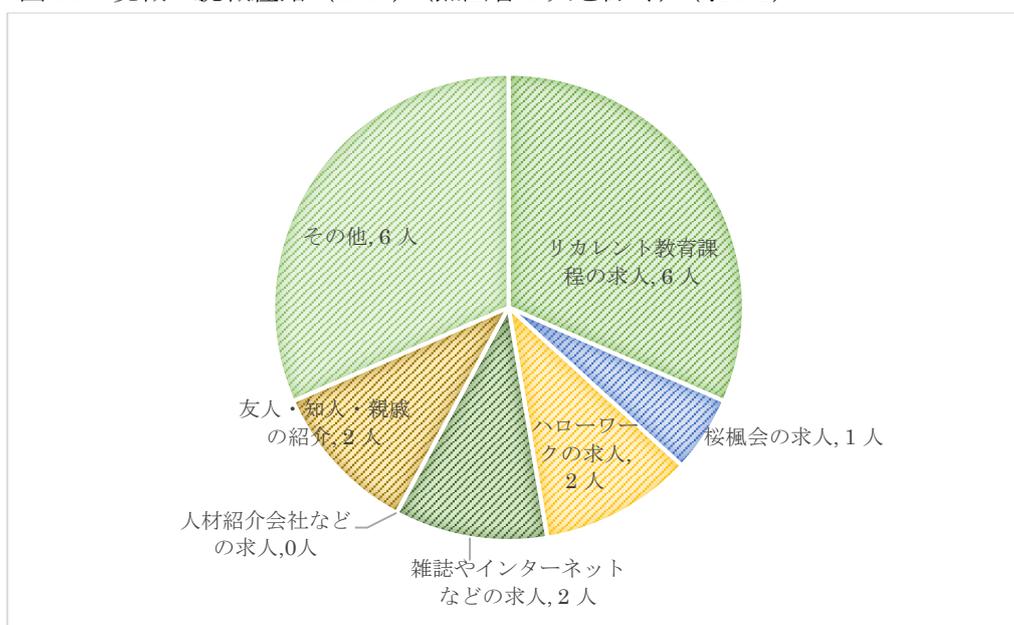


図 45 入学後の就職件数 (n=19) (無回答 2 人を除く) (Q44-2)

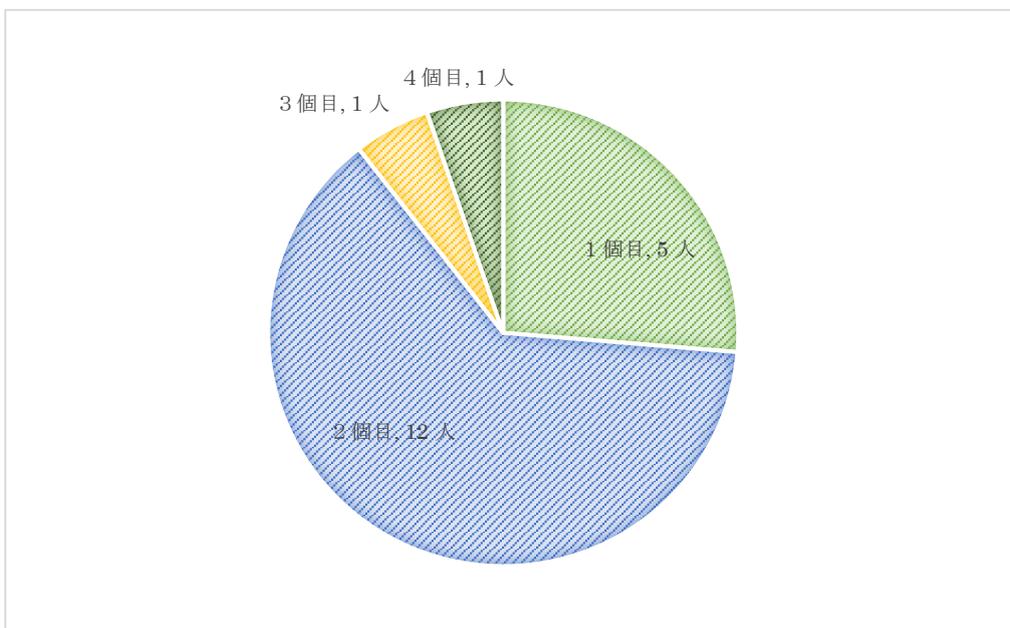


図 46 現職の就業形態 (n=19) (無回答 2 人を除く) (Q45)

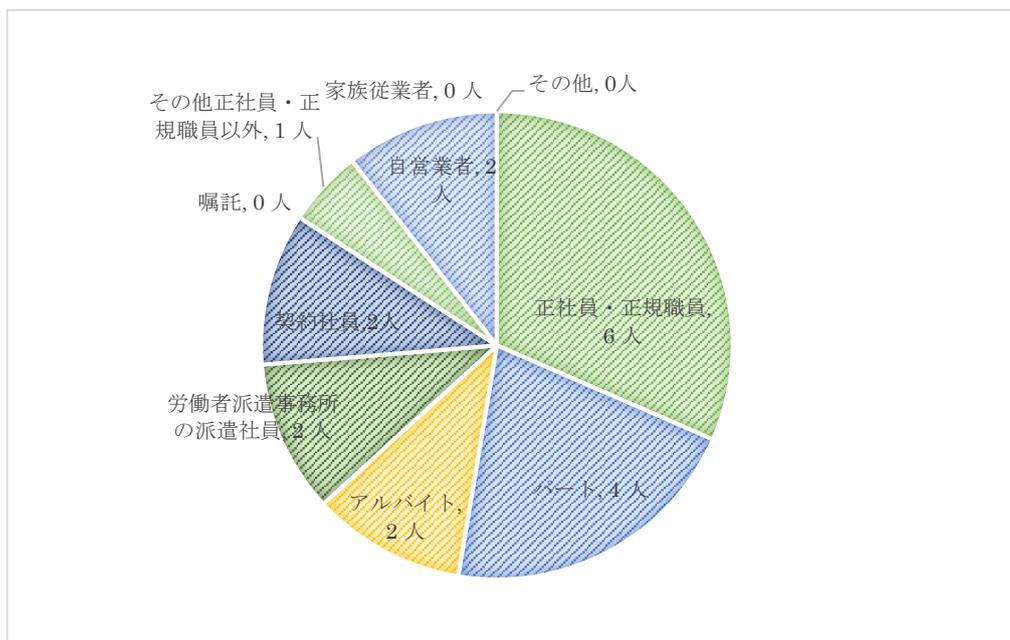


図 47 現職の企業全体の従業員数 (n=19) (無回答 2 人を除く) (Q46)

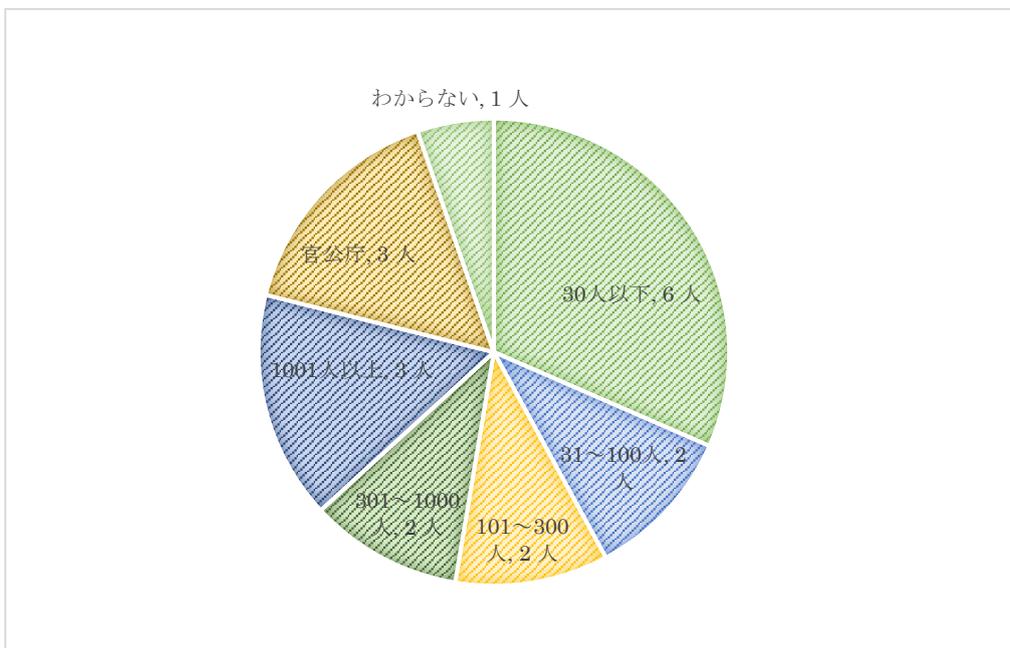


図 48 現職の業種 (n=19) (無回答 2 人を除く) (Q47)

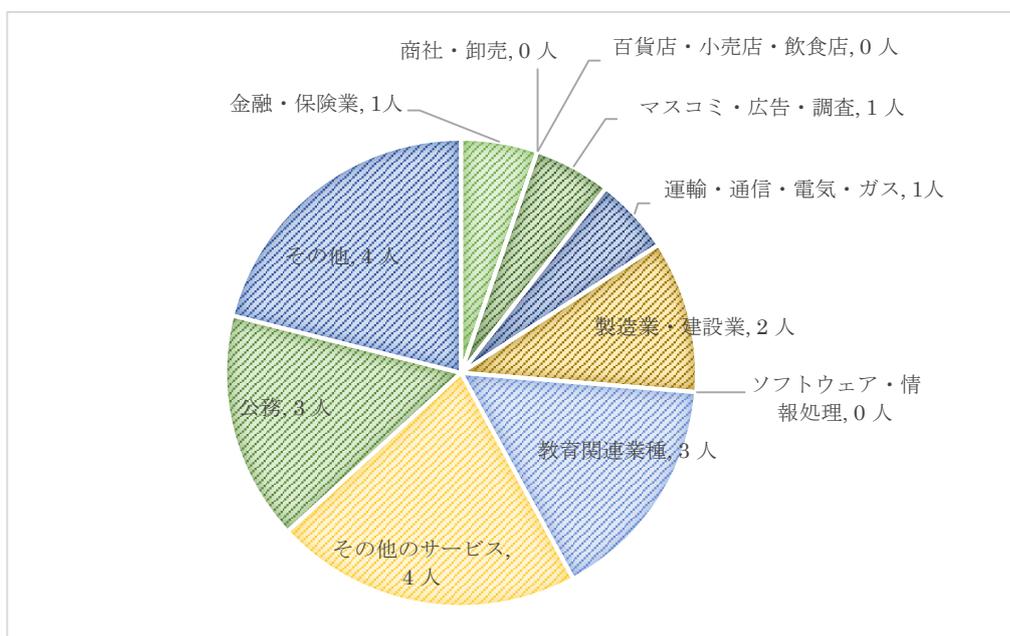


図 49 現職の仕事の内容 (n=19) (無回答 2 人を除く) (Q48)

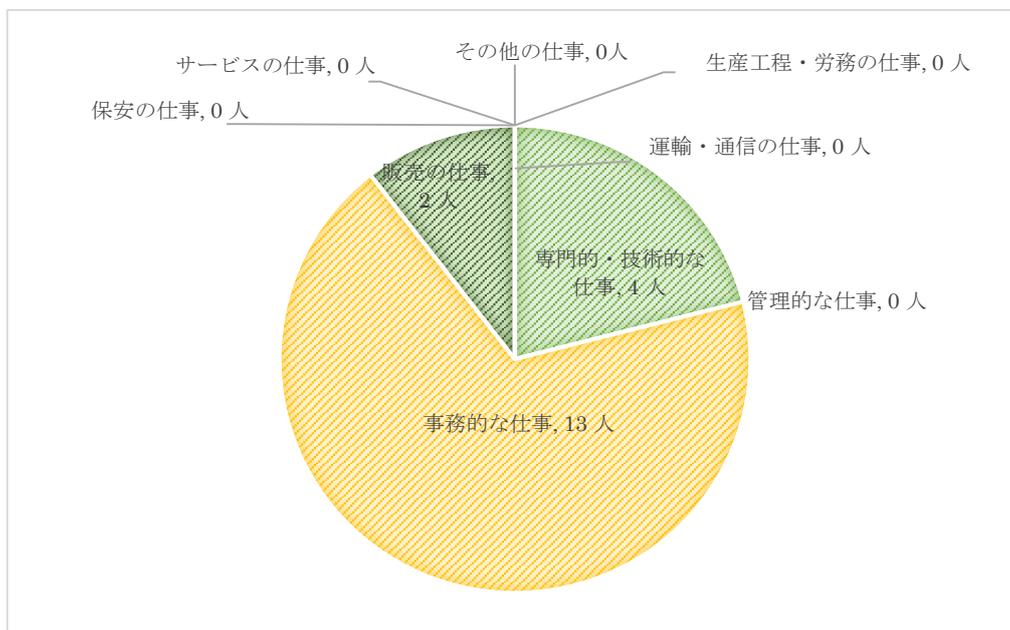


図 50 現職の職務上の地位 (n=19) (無回答 2 人を除く) (Q49)

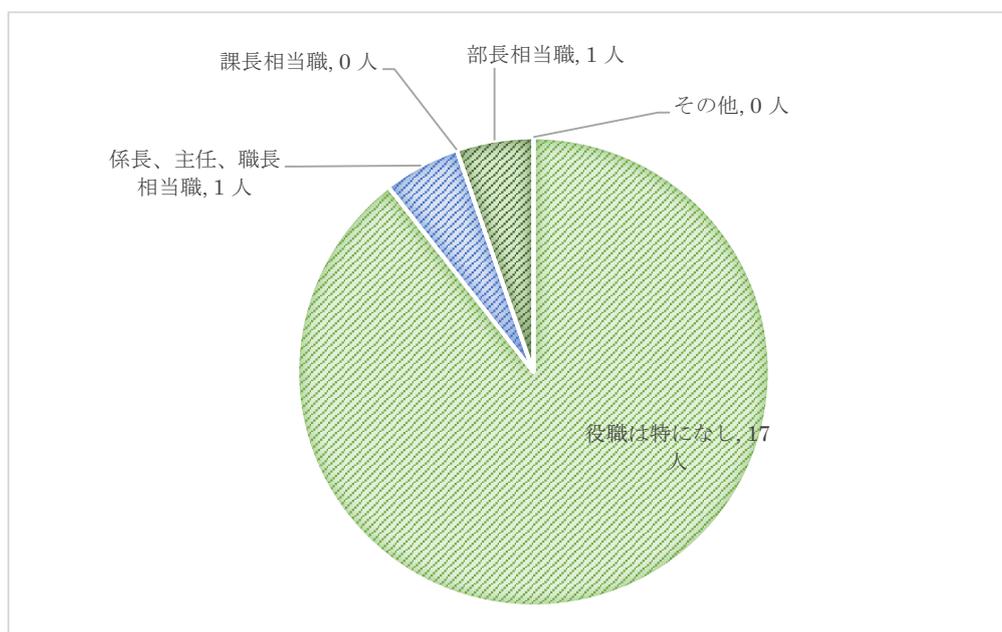


図 51 現職までの就職活動の最重視点(n=18) (無回答 3 人を除く) (Q50)

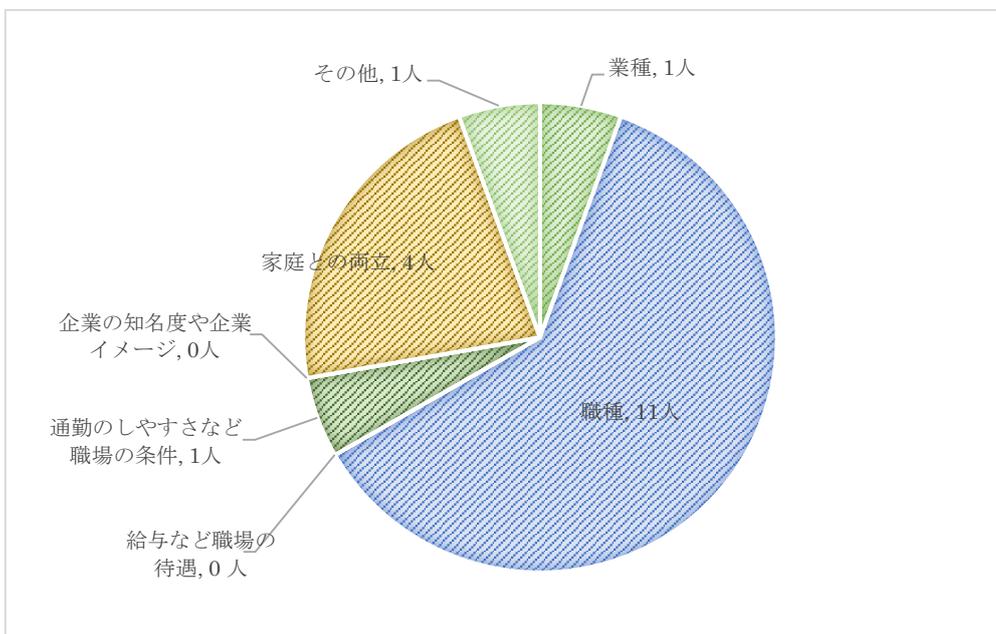


図 52 現職の仕事のやり方 (n=19) (無回答 2 人を除く) (Q51)

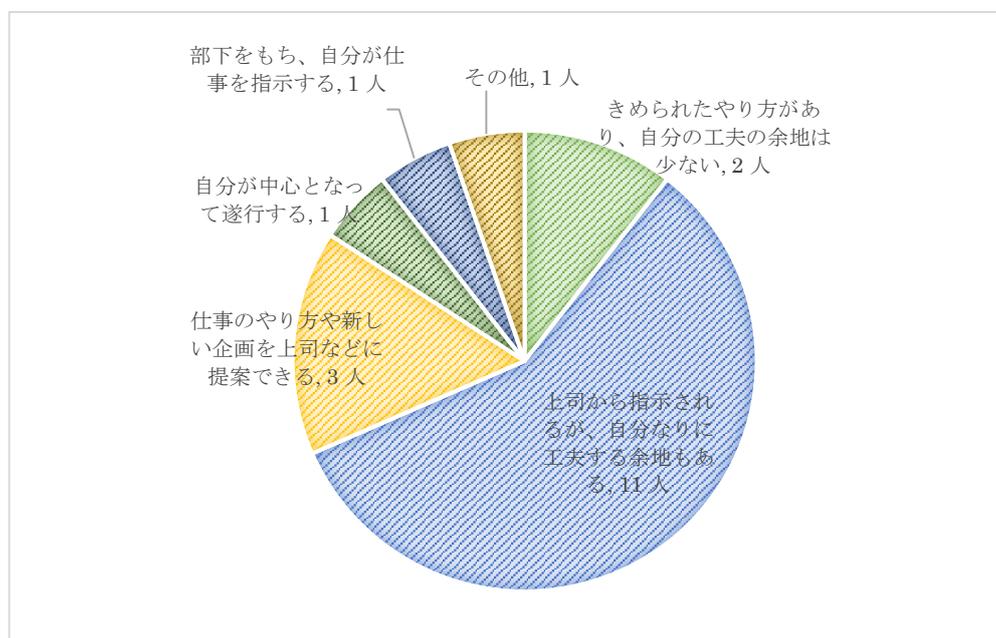


表 4 入学後職と現職との変化(n=19) (無回答 2 人を除く) (単位:人) (Q52)

	よくなった	どちらかといえばよくなった	どちらともいえない	どちらかといえば悪くなった	悪くなった
やりがいなど仕事の内容	8	6	4	1	0
雇用の安定性	6	2	6	1	4
給与	6	3	3	1	6
労働時間	8	2	4	3	2
昇進・処遇	2	4	10	0	3
評価システム	1	3	11	1	3
研修などの教育訓練	5	4	6	1	3
職場の人間関係・コミュニケーション	4	7	7	1	0
自宅と職場の距離	8	0	6	4	1
仕事と家庭の両立	6	3	6	4	0

図 53 入学後の転職・再就職の評価 (n=18) (無回答 3 人を除く) (Q53)

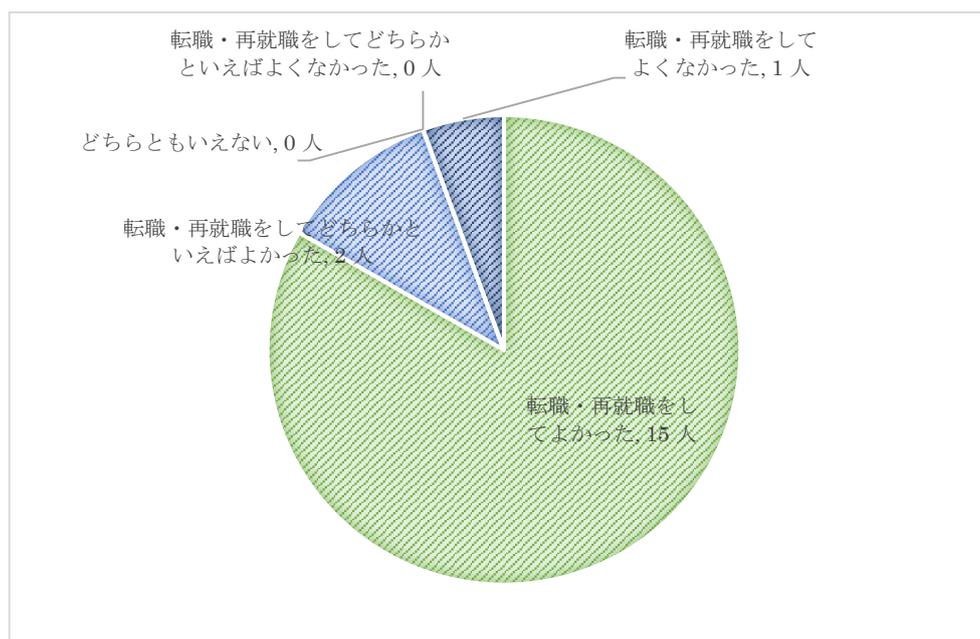


図 54 今後の働き方意向 (n=19) (無回答 2 人を除く) (Q54-1)

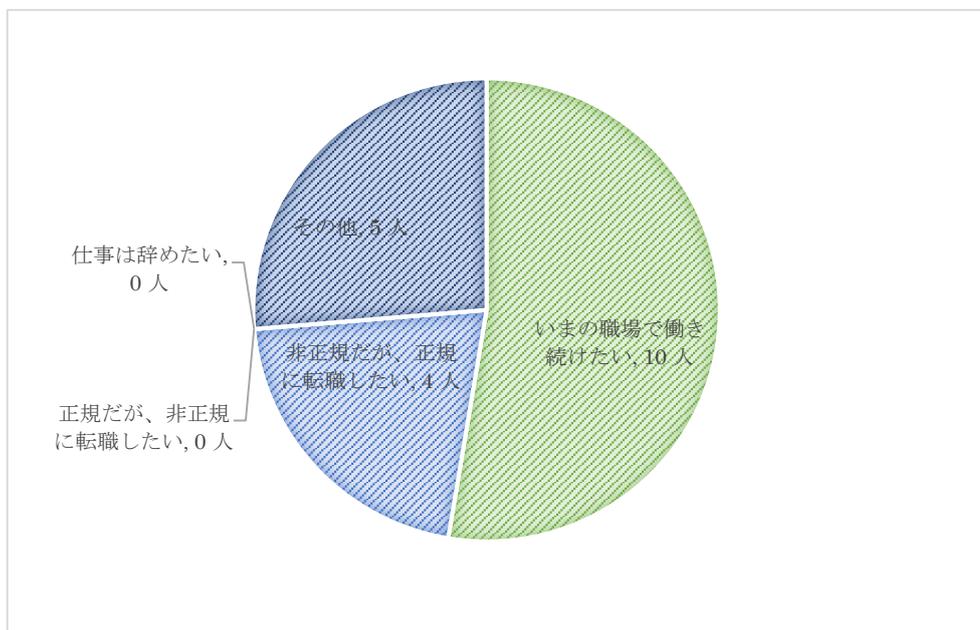
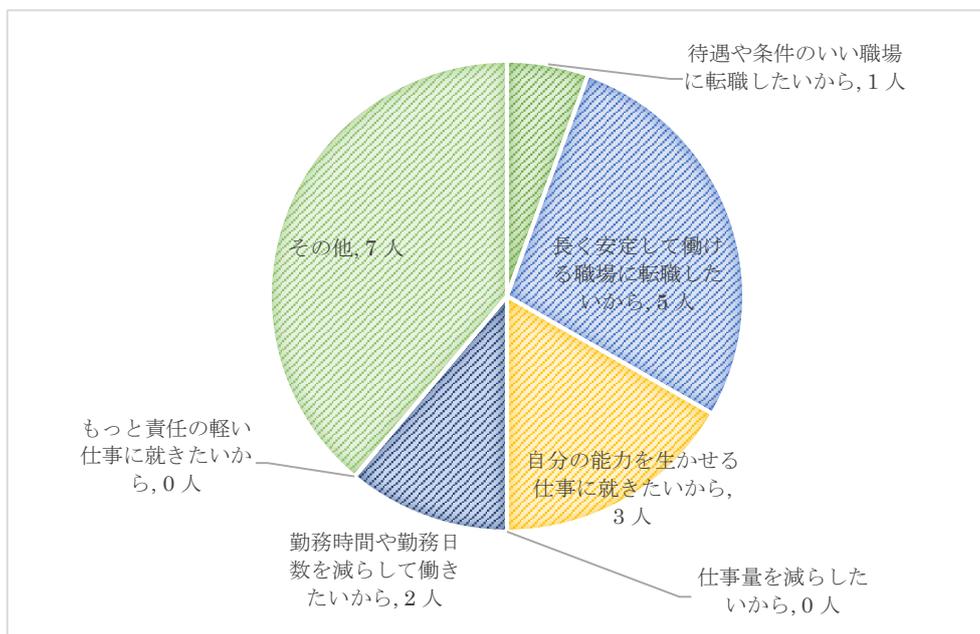


図 55 今後の働き方意向の理由 (n=18) (無回答 3 人を除く) (Q54-2)



(6) 現在、仕事に就いていない人

現在、仕事に就いていない人について、就職意向や求職活動について尋ねた。

図 56 就職意向 (n=12) (無回答 1 人を除く) (Q55)

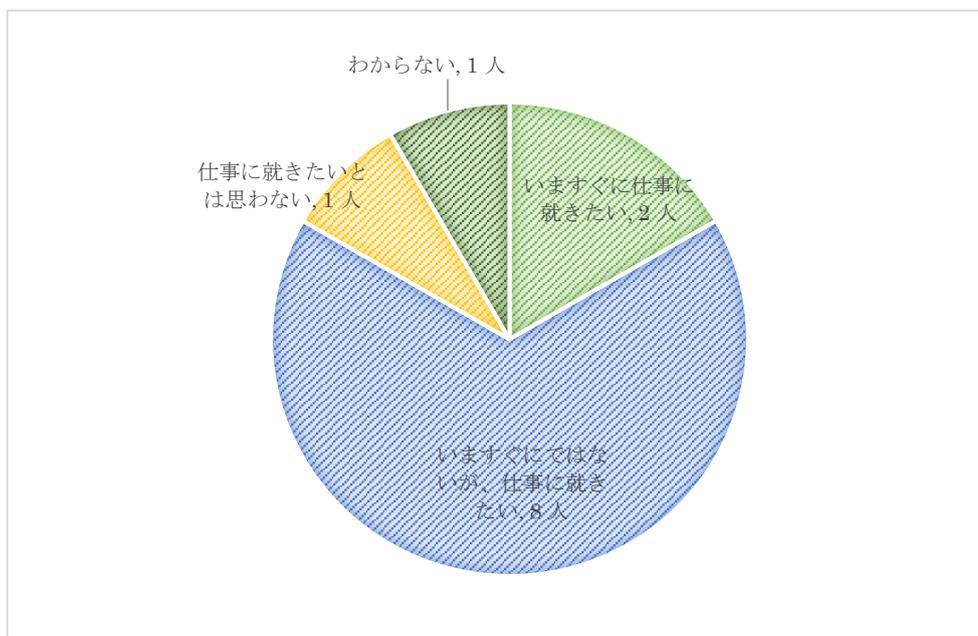


図 57 現在非就業理由 (n=11) (無回答 2 人を除く) (Q56)

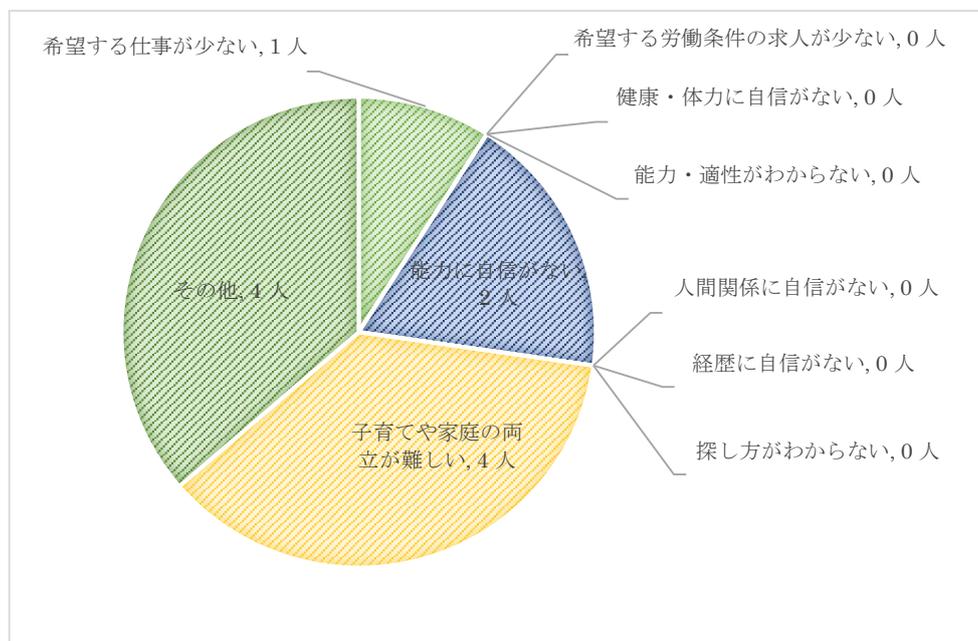


図 58 求職活動の有無 (n=12) (無回答 1 人を除く) (Q57)

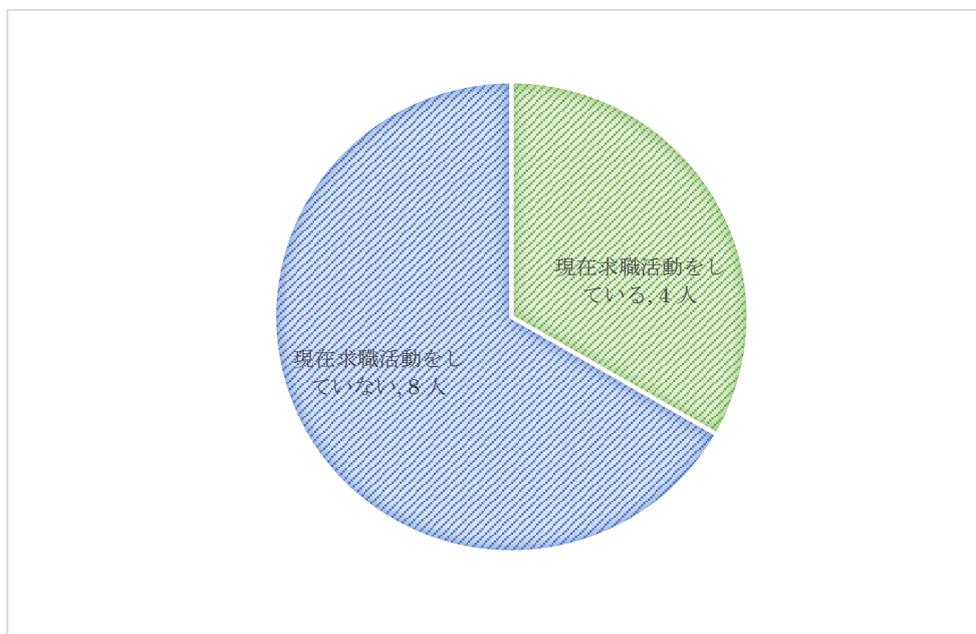


図 59 情報の入手経路 (n=4) (複数回答) (Q58)

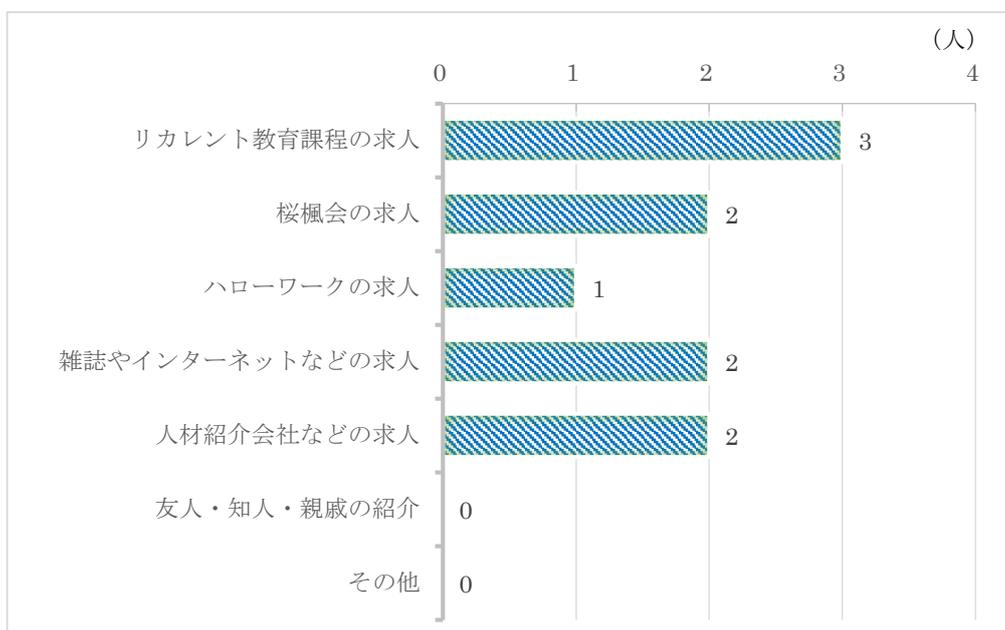
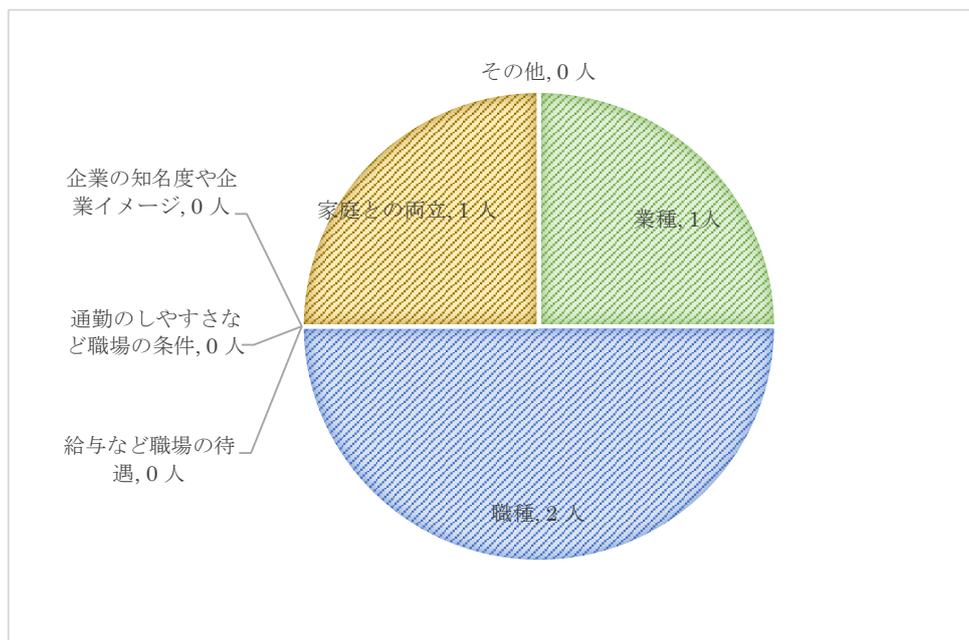


図 60 求職活動のさい最も重視している点 (n=4) (Q59)



(7) リカレント教育課程在籍中の経験について

ここからは、回答者全員を対象に、リカレント教育課程での経験について尋ねた。

図 61 リカレント教育課程入学動機(n=71) (無回答 3 人を除く) (Q60)

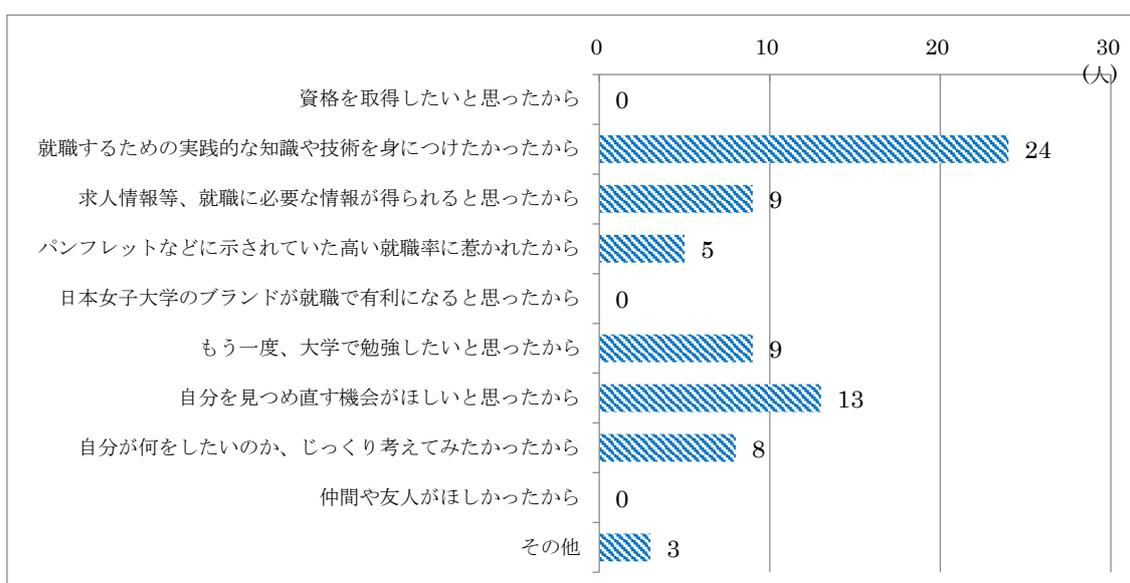


図 62 リカレント教育課程を知った経路 (N=74) (Q61)

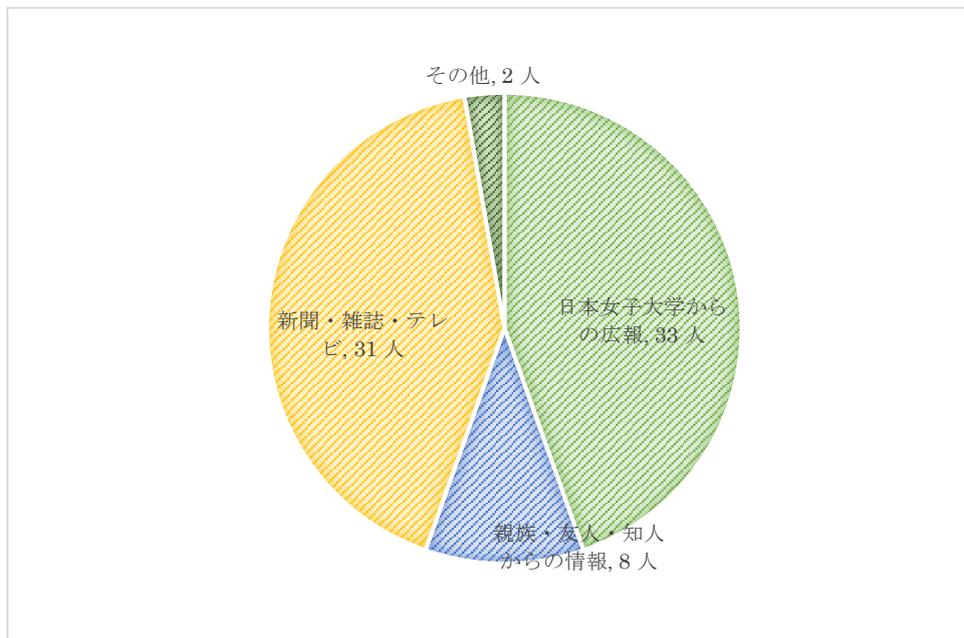


図 63 リカレント教育課程の学費負担者 (n=73) (無回答 1 人を除く) (Q62)

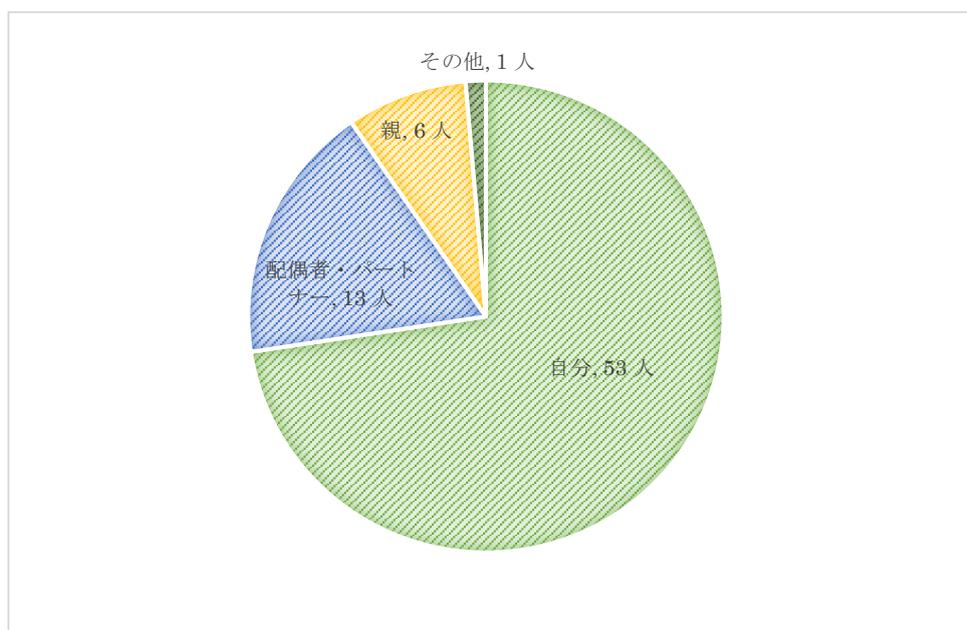


図 64 学費について (N=74) (Q63)

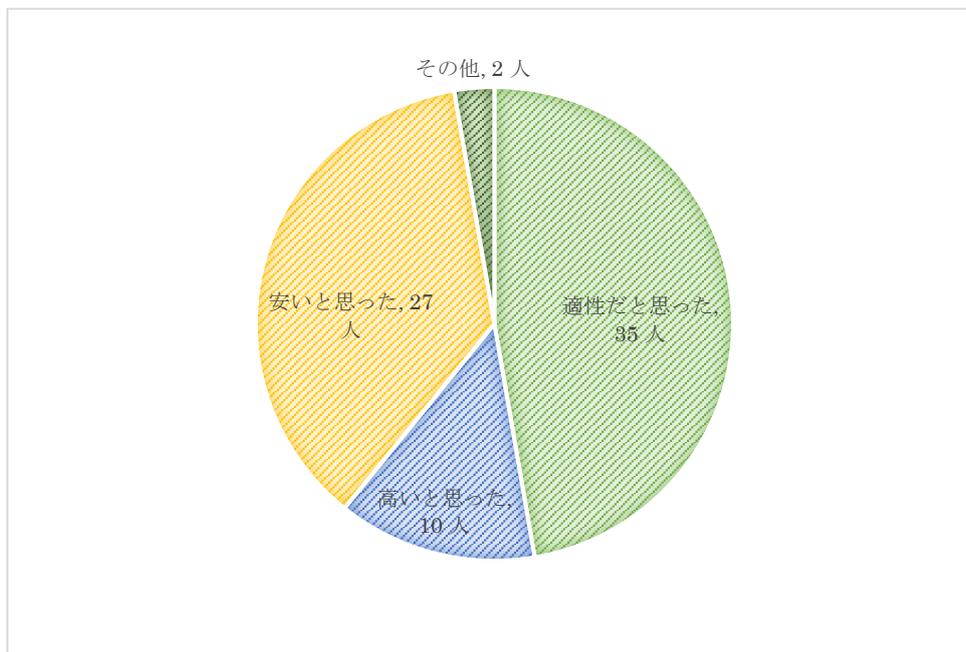


図 65 入学時の就職意識 (N=74) (Q64)

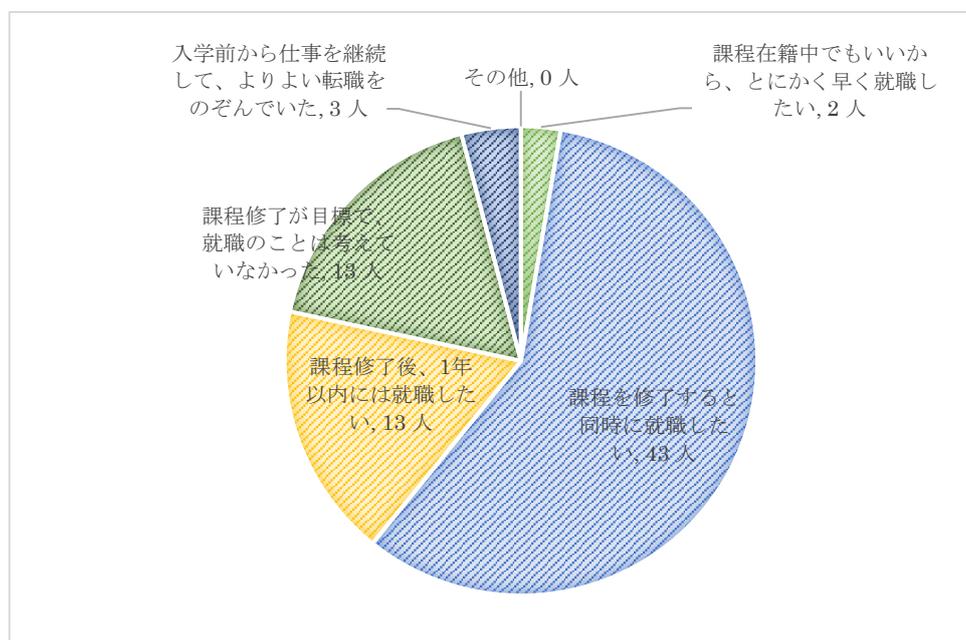


表 5 入学後意欲的に学びたいと思った科目（1位のみ）（N=74）（Q65）

科目名	n
キャリアマネジメント(キャリア開発論)	7
英語（ビジネス）	13
英語（時事）	4
英語（TOEIC）	10
ITリテラシー	21
ビジネス関係（金融リテラシー、企業会計入門、税法入門、内部監査の実務、など）	8
資格準備講座（労働法と労働保険法、消費生活アドバイザー、記録情報管理者、など）	7
学部の科目	4
その他	0

表 9 カリキュラムや科目選択への評価（n=71）（無回答 3 人を除く）（Q69）

評価	n
カリキュラムは適切であった	18
必修科目をもっと増やしてほしいかった	2
選択科目をもっと増やしてほしいかった	24
学部の科目をもっと自由に科目選択ができればよいと思った	17
その他	10

表 10 期間の評価（N=74）（Q70）

評価	n
1年間、二期制は適切であった	40
長期休暇は必要ないと思った	18
期間も自由に選択できればよいと思った	14
その他	2

表 13 就職に関する優先順位の変化（N=74）（Q73）

		1位	2位	3位	4位	5位	6位	無回答
なるべく早い時期の就職	入学時	2	5	9	10	15	26	7
	在籍時	3	11	8	9	16	21	6
	修了時	11	8	9	8	18	15	5
自分の能力や適性にあっている仕事	入学時	25	18	10	11	3	2	5
	在籍時	30	19	8	7	5	1	4
	修了時	33	17	12	5	3	1	3
正規雇用	入学時	20	10	8	5	9	15	7
	在籍時	15	10	9	6	9	19	6
	修了時	7	8	9	6	8	31	5
給与など職場の待遇・条件	入学時	3	17	18	13	14	4	5
	在籍時	2	14	20	18	10	6	4
	修了時	1	14	18	23	11	4	3
仕事と家庭の両立が可能な職場	入学時	16	14	13	5	7	14	5
	在籍時	16	12	14	10	4	14	4
	修了時	16	20	11	6	4	14	3
職場の将来性と安定	入学時	3	5	11	24	19	6	6
	在籍時	4	4	11	19	24	7	5
	修了時	3	4	12	21	25	4	5

図 66 課程籍中の就職活動_時期 (N=74)

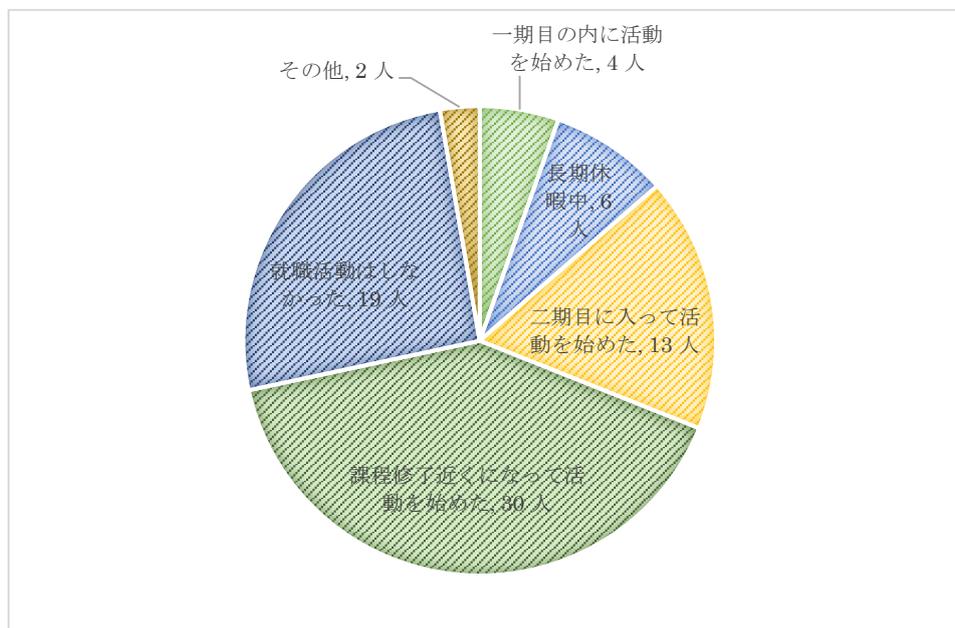


図 67 課程在籍中の就職活動_主な情報源 (n=44) (無回答 11 人を除く) (Q74)

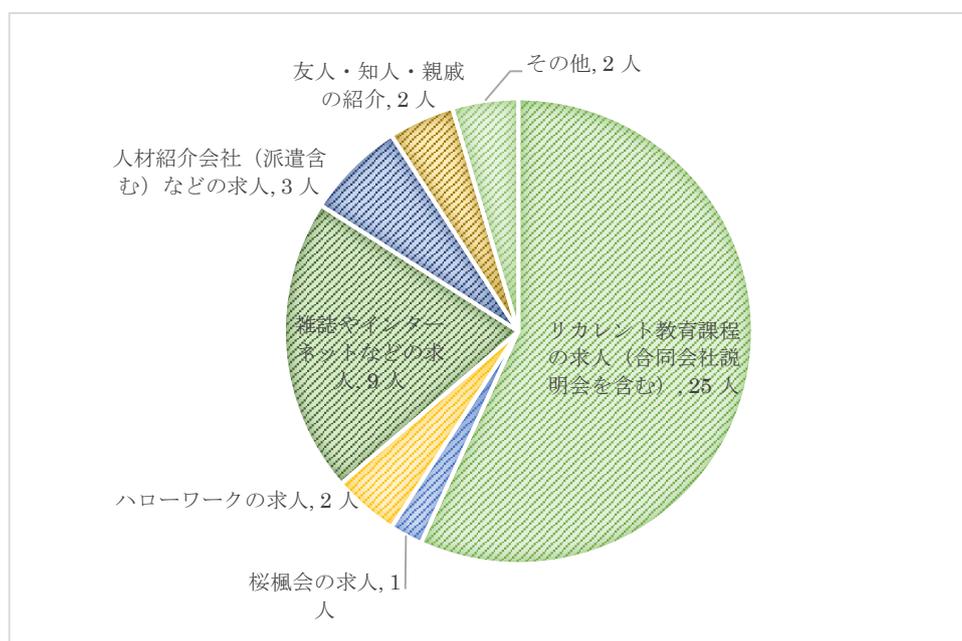


図 68 入学時の目標 (n=73) (無回答 1 人を除く) (Q75-1)

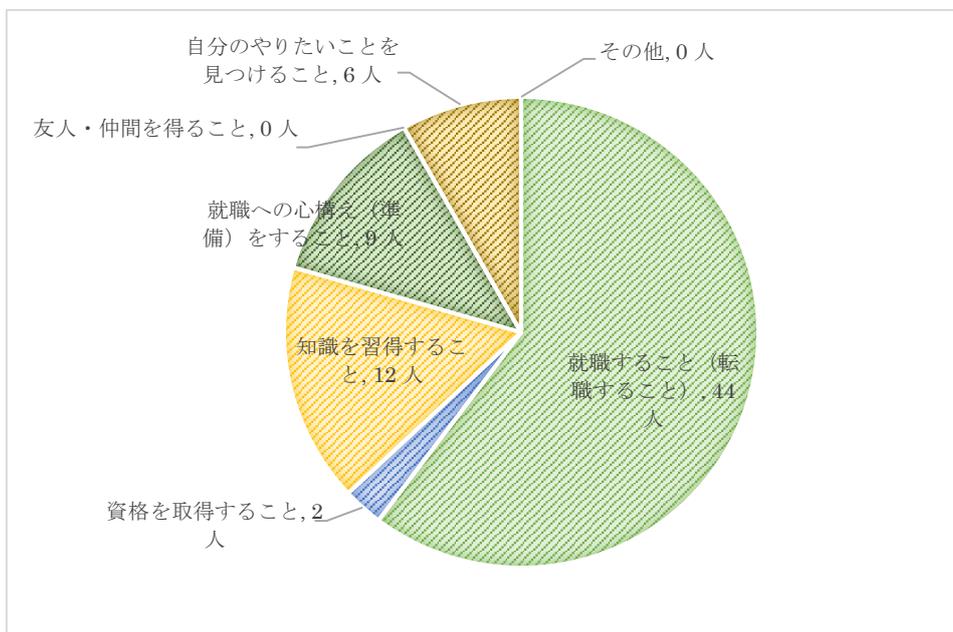


図 69 入学時の目標の目標達成状況 (N=74) (Q75-2)

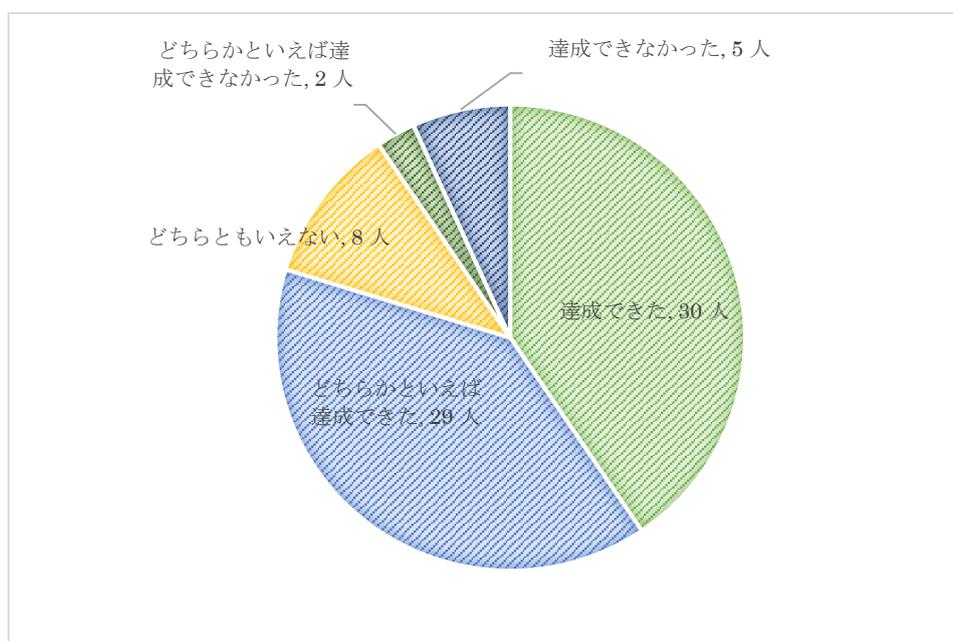
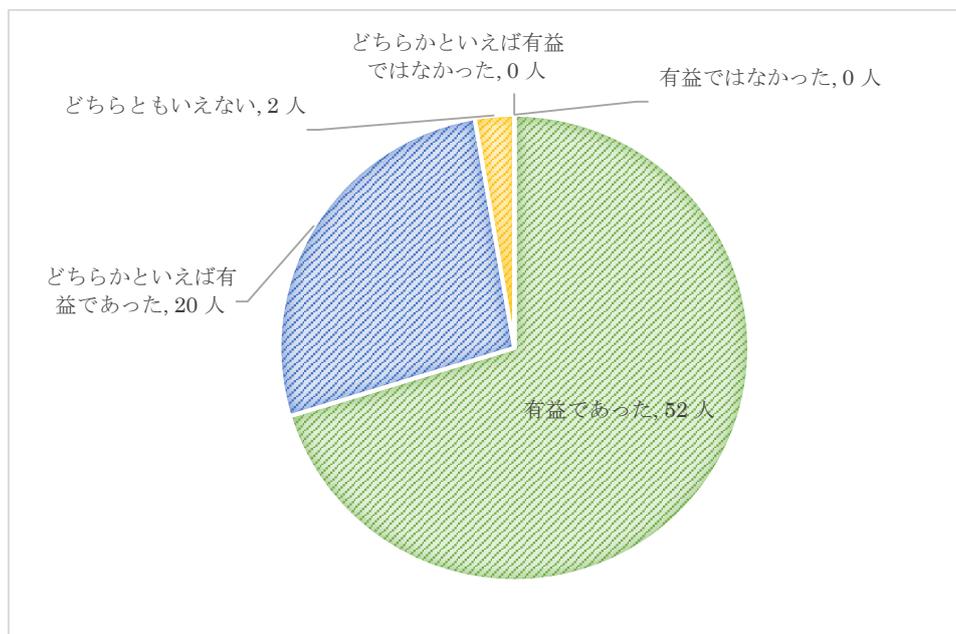


図 70 教育課程での経験の有益度 (N=74) (Q76)



(8) リカレント教育課程修了後の経験について

リカレント教育課程を修了した後、日本女子大学の求人 web サイトを利用しているか否かなど、終了後の就職活動や考え方の変化等について尋ねた。

図 79 考え方の変化に影響を与えた要因 (n=72) (無回答 2 人を除く) (Q83)

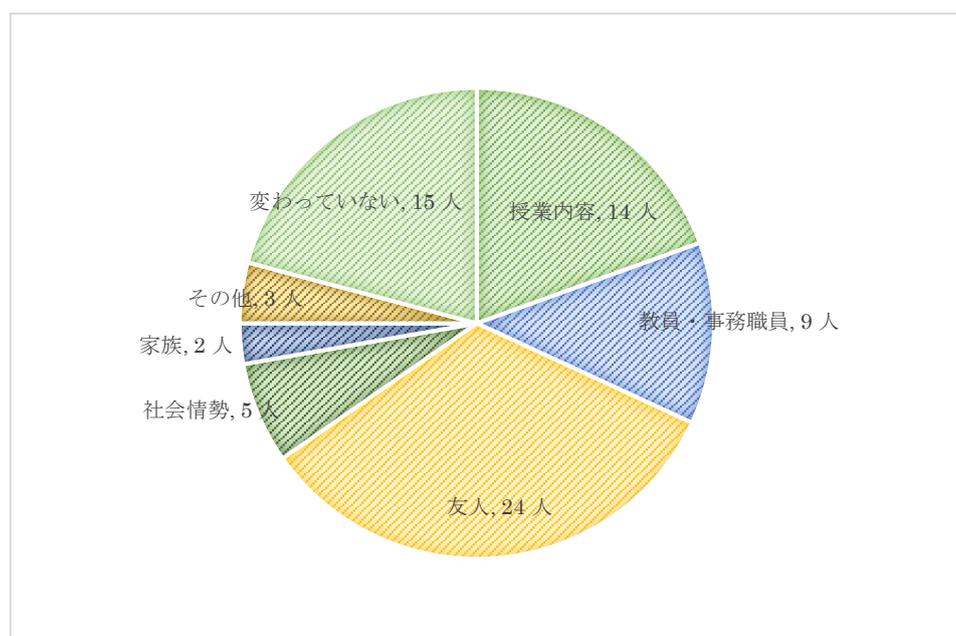


図 80 修了生に対する支援要望 (N=74) (複数回答) (Q84)

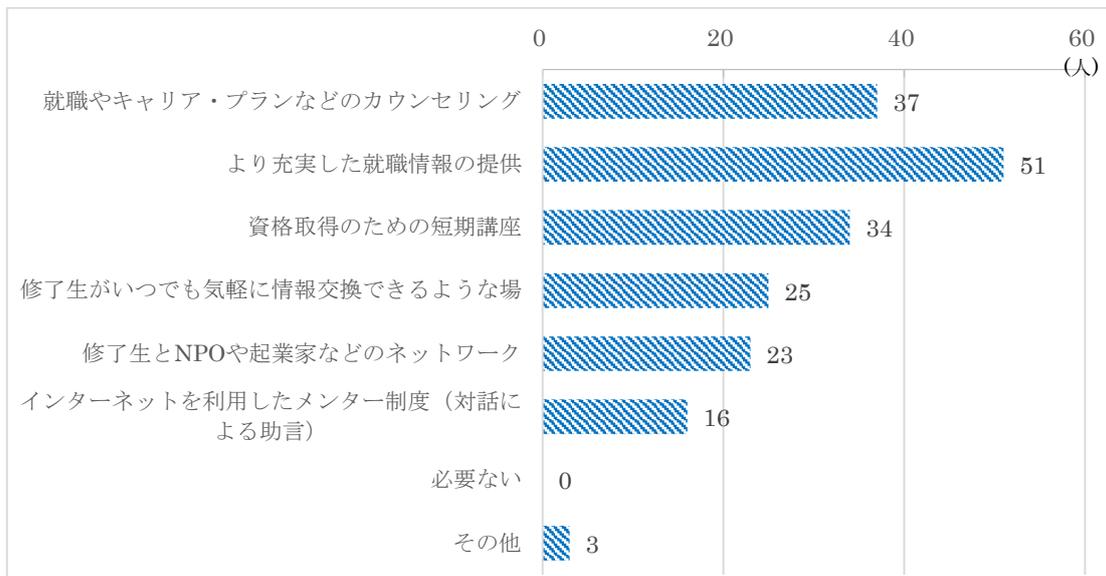
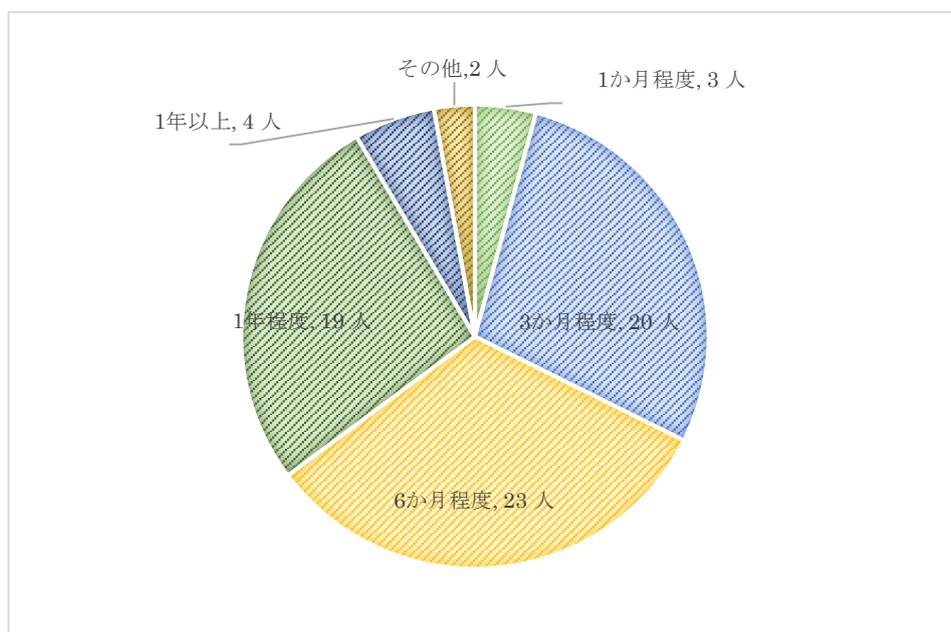
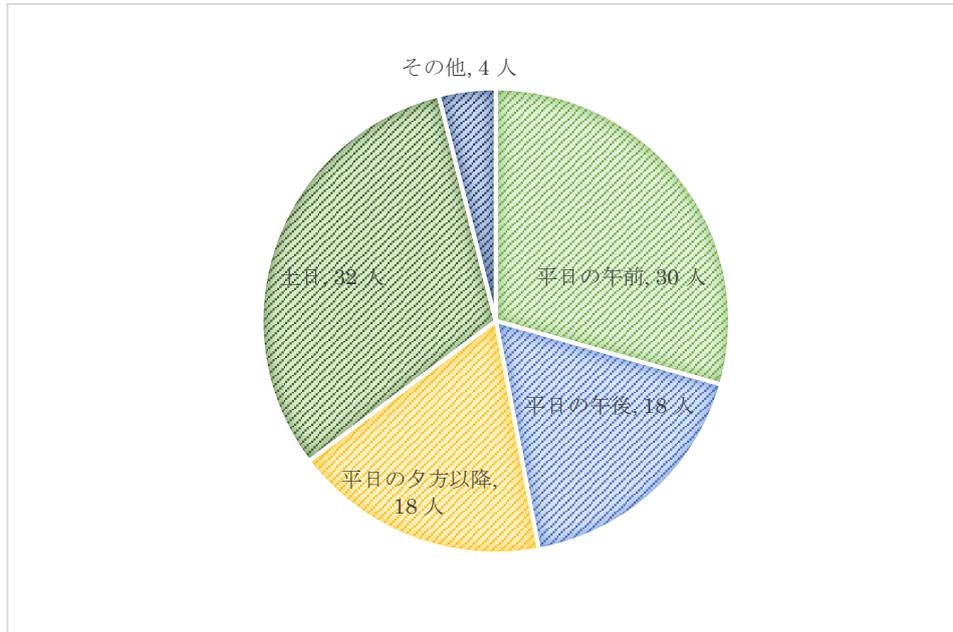


図 81 要望する再就職支援プログラムの利用条件 (Q85)
期間 (n=71) (無回答 3 人を除く)



時間帯 (n=71) (無回答 3 人を除く) (複数回答)



修了までにかかる費用 (n=70) (無回答 4 人を除く)

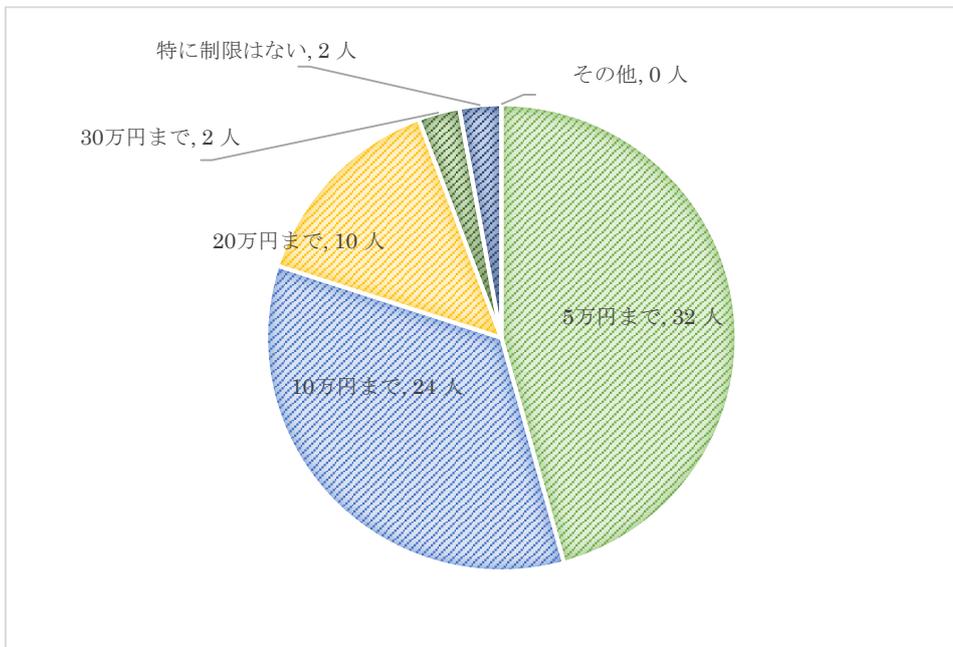


図 82 転職・再就職支援プログラム・コースの要望 (n=73) (無回答 1 人を除く)
(複数回答)

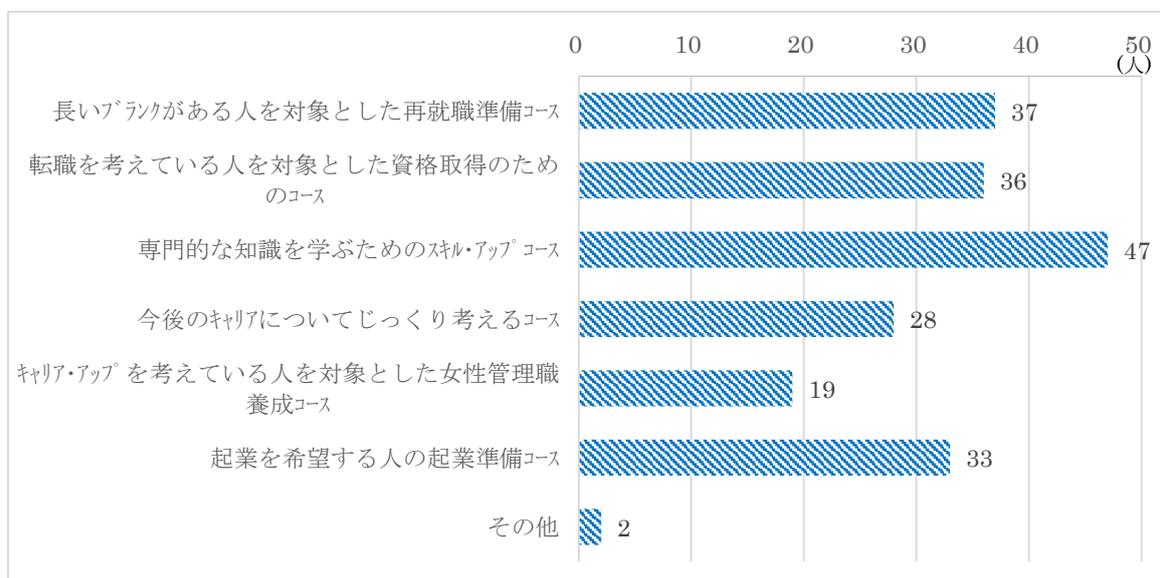
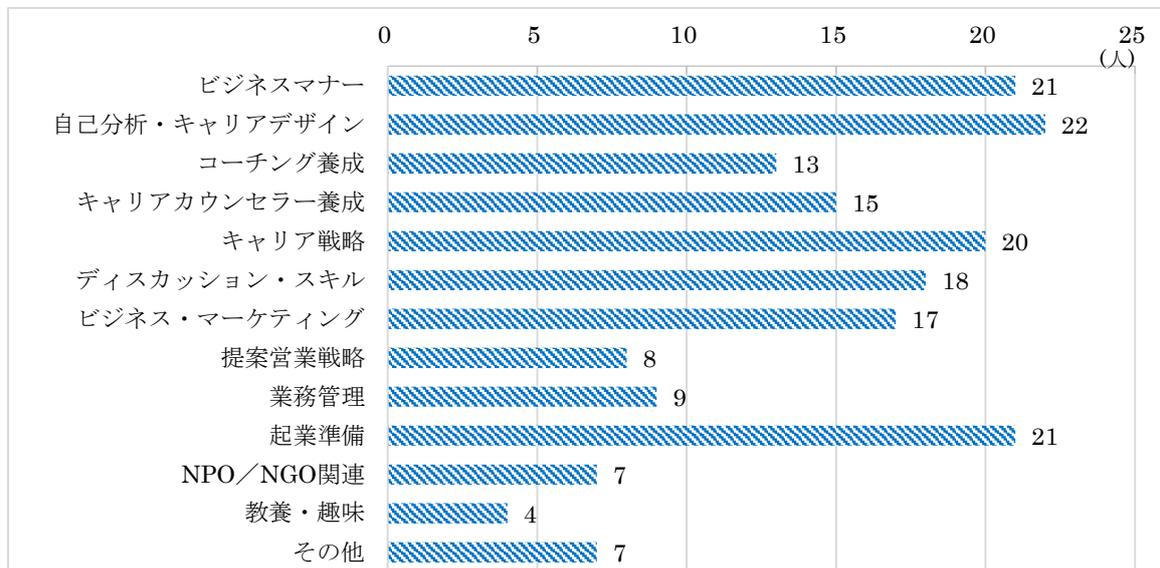


図 83 転職・再就職のための講座要望 (n=70) (無回答 4 人を除く) (複数回答)



(9) 調査対象者のプロフィール

図 86 家計の主たる担い手(n=73) (無回答 1 人を除く) (F3)

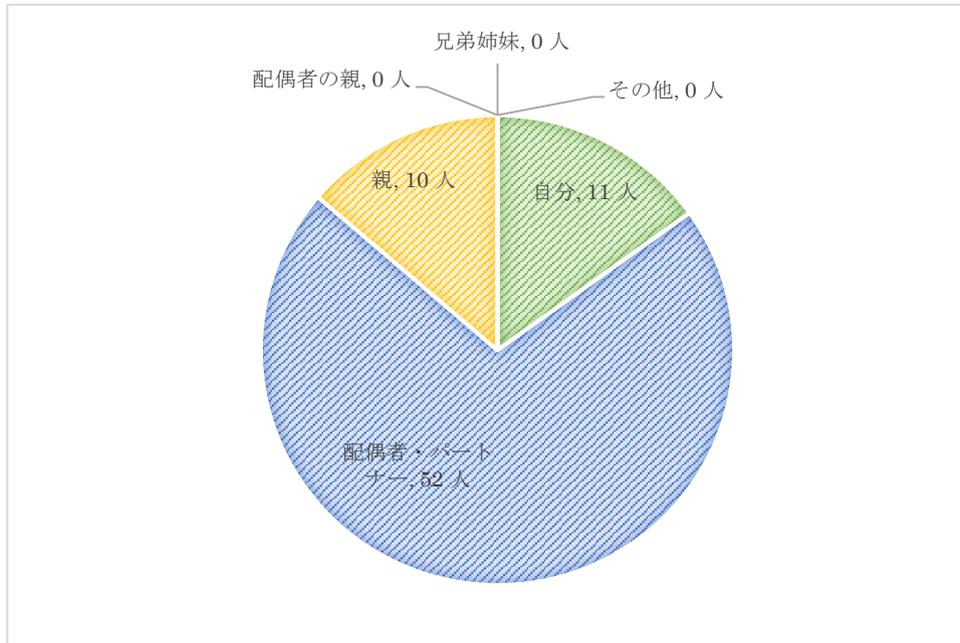


図 92 配偶者・パートナーの現在の就業形態(n=52) (無回答 2 人を除く) (F10)

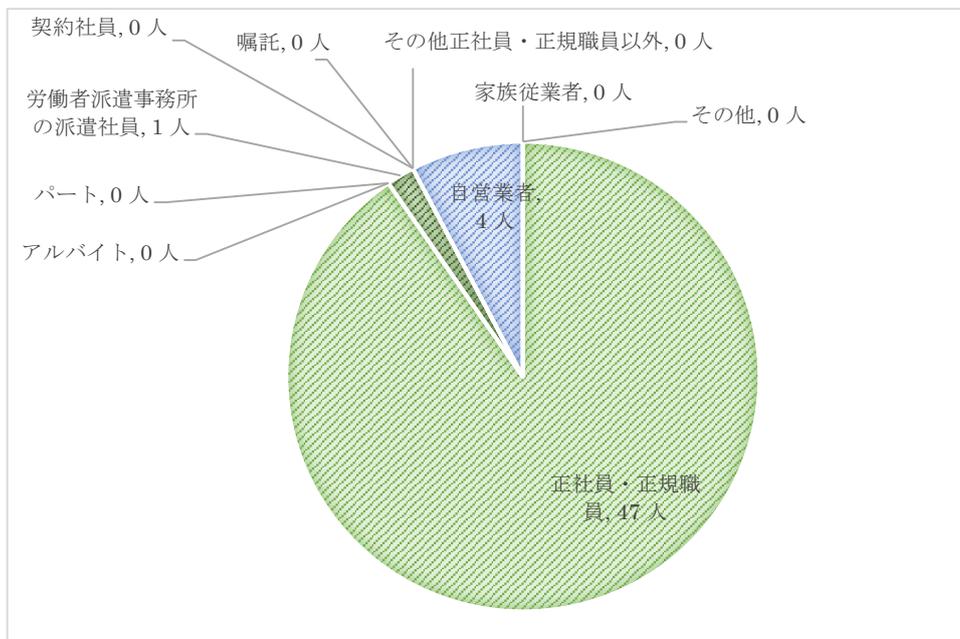


図 93 共働き経験(n=53) (無回答 1 人を除く) (F11)

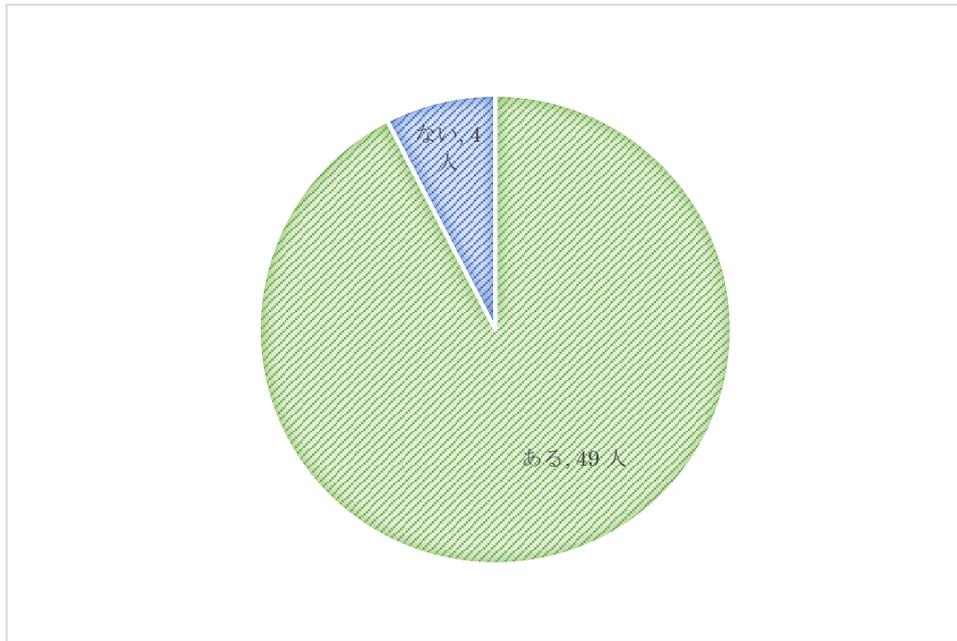


図 94 「仕事をもつ」ことの配偶者・パートナーへの影響 (n=54) (F12)

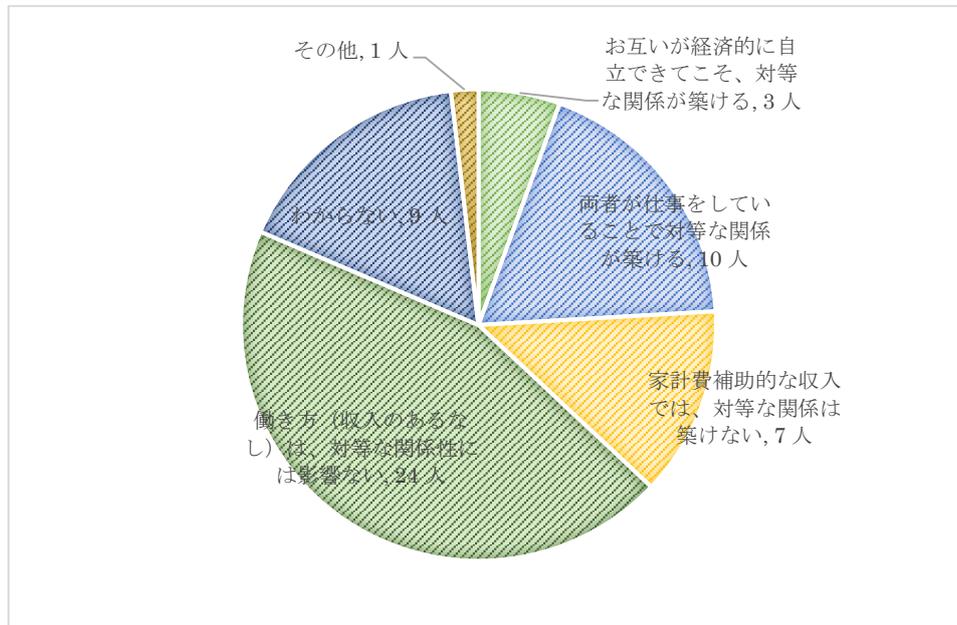


図 95 リカレント教育課程に対する配偶者・パートナーの態度(n=54) (F13)

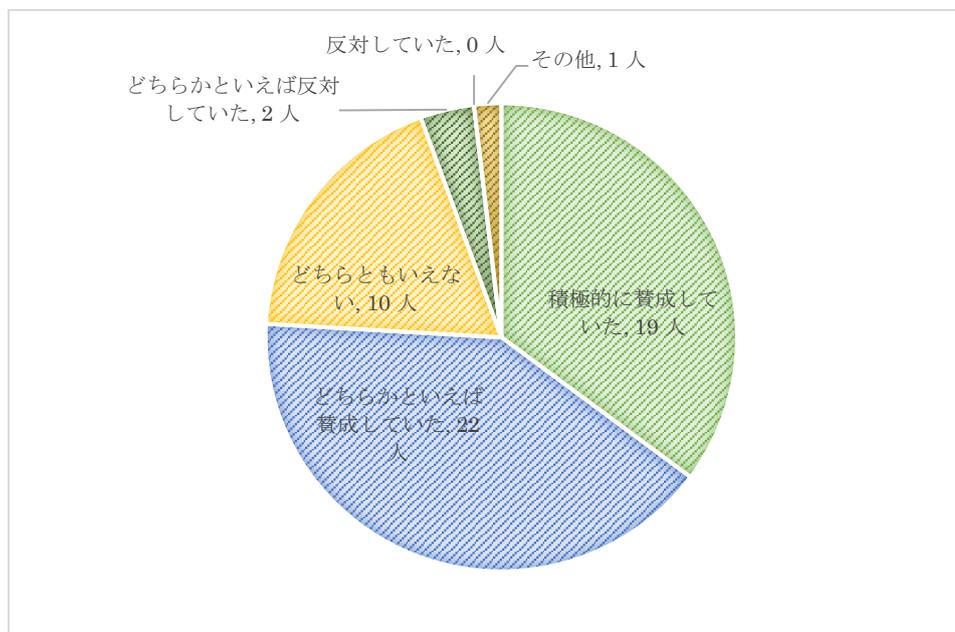


図 96 就業に対する配偶者・パートナーの態度(n=54) (F14)

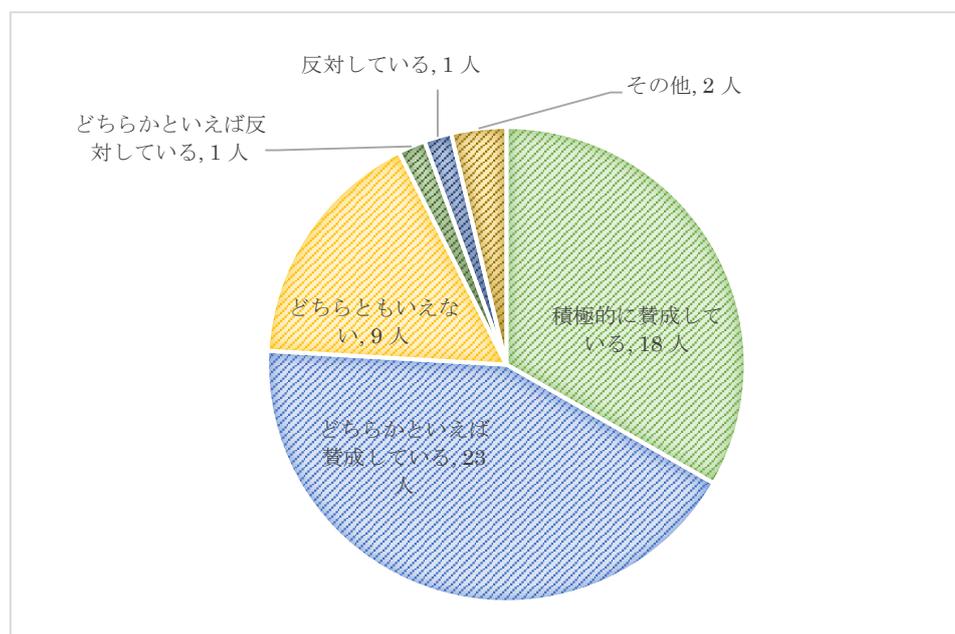


図 97 子どもの有無 (n=69) (無回答 5 人を除く) (F15-1)

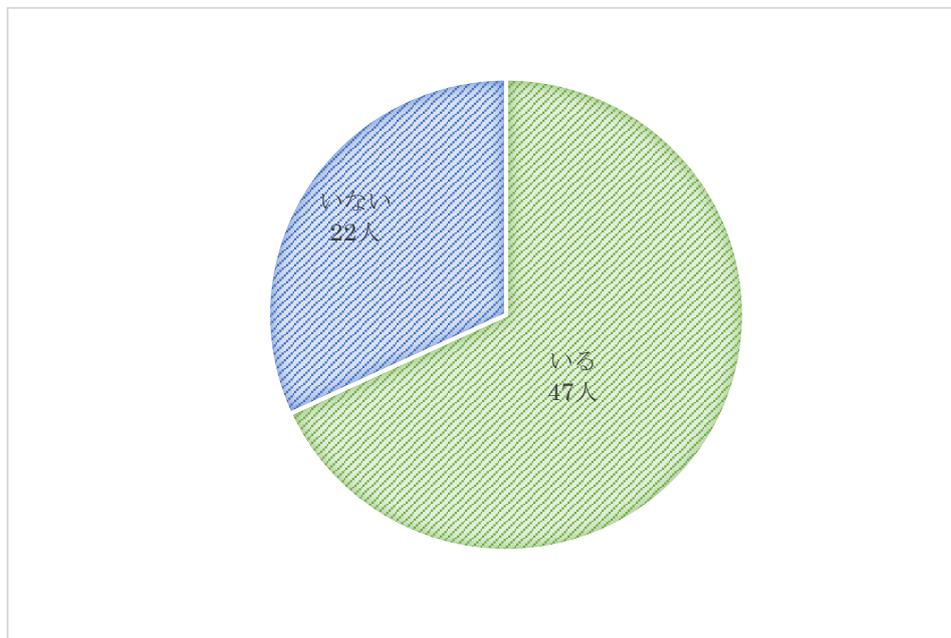


図 98 子どもの人数(n=47) (F15-2)

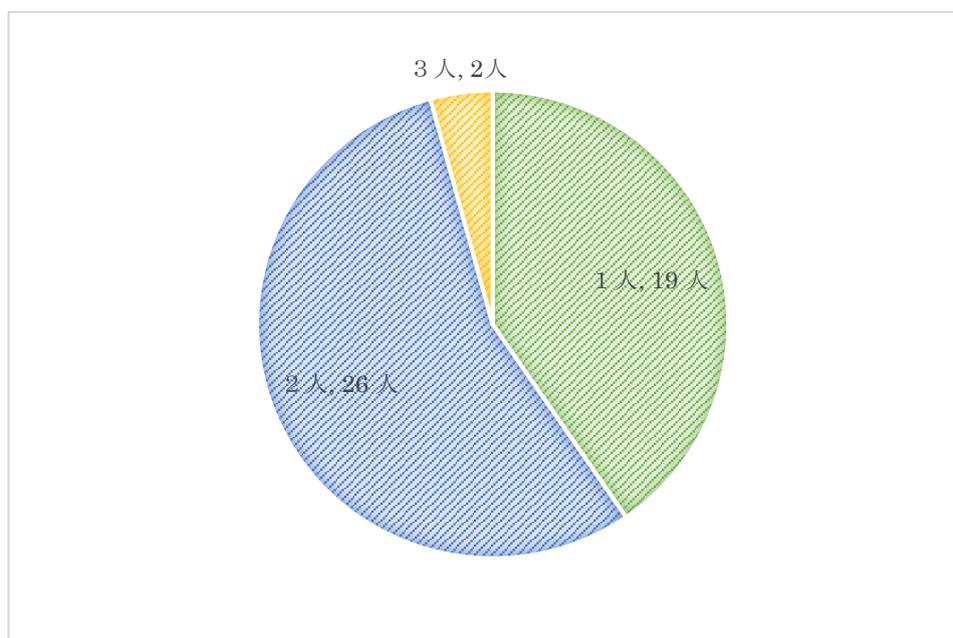


図 99 在籍中の家事・育児の分担(n=46) (無回答 1 人を除く) (F17)

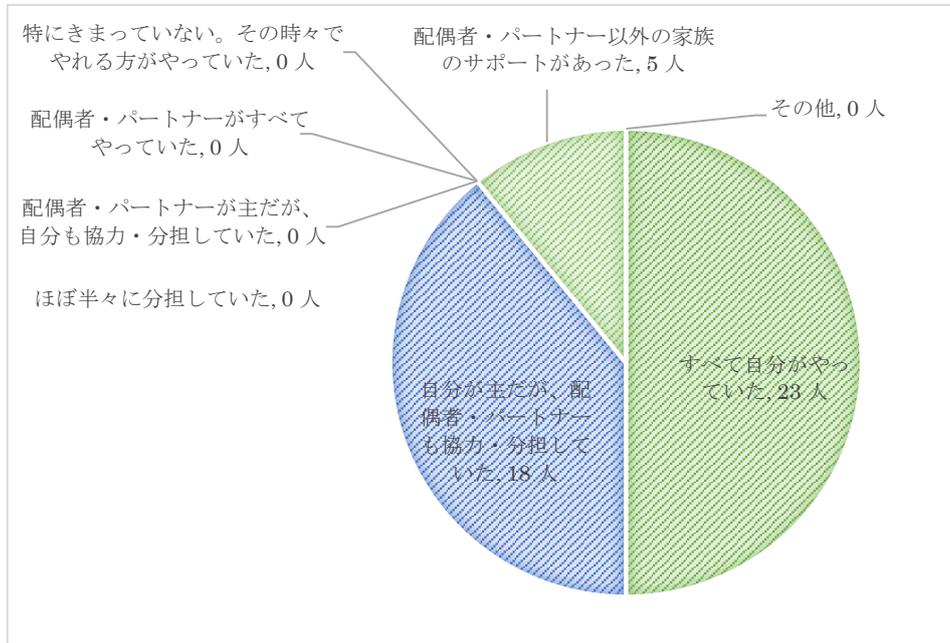


図 100 在籍中に利用した子育て支援機関・サービス(n=9) (複数回答)
(特にない/無回答 38 人を除く) (F18)

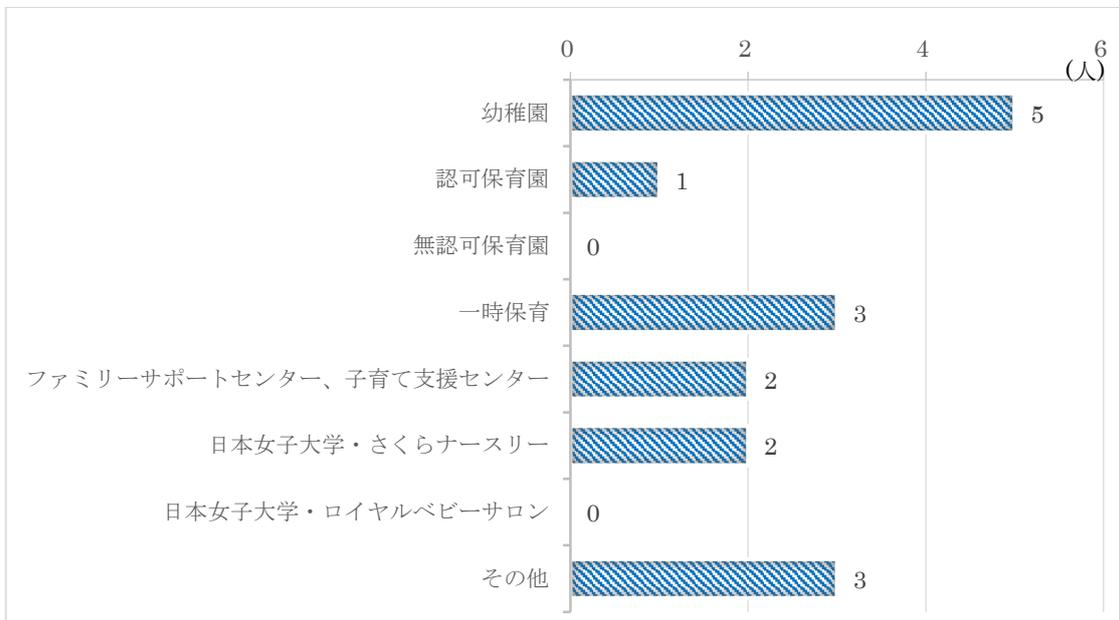


図 101 「女性が働くこと」について_学生時代の考え (N=74) (F19)

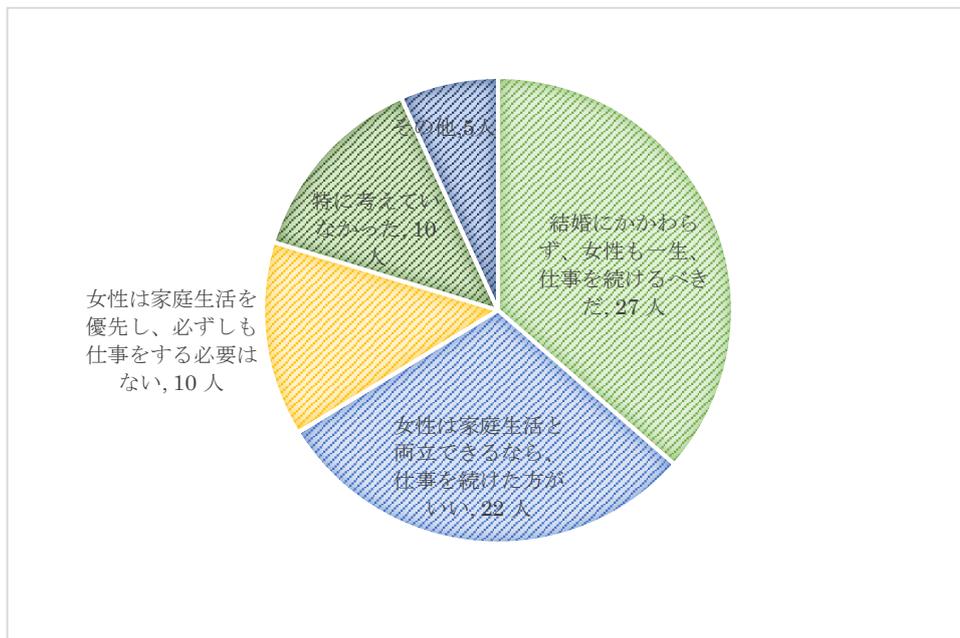


図 102 「女性が働くこと」について_考えの変化 (n=72) (無回答 2 人を除く) (F20)

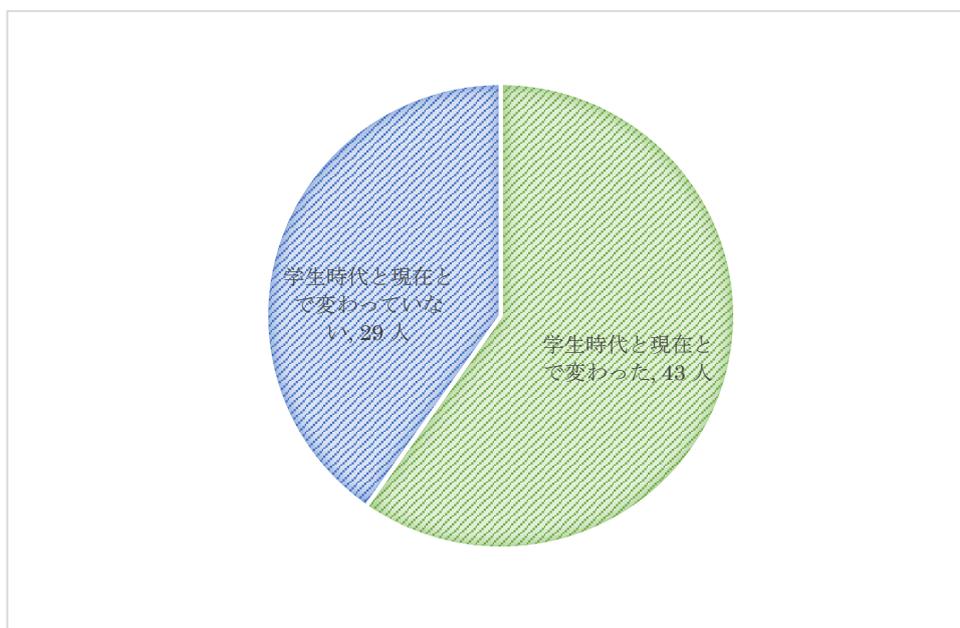


図 103 退職の後悔有無(n=72)(無回答2人を除く)(F21-1)

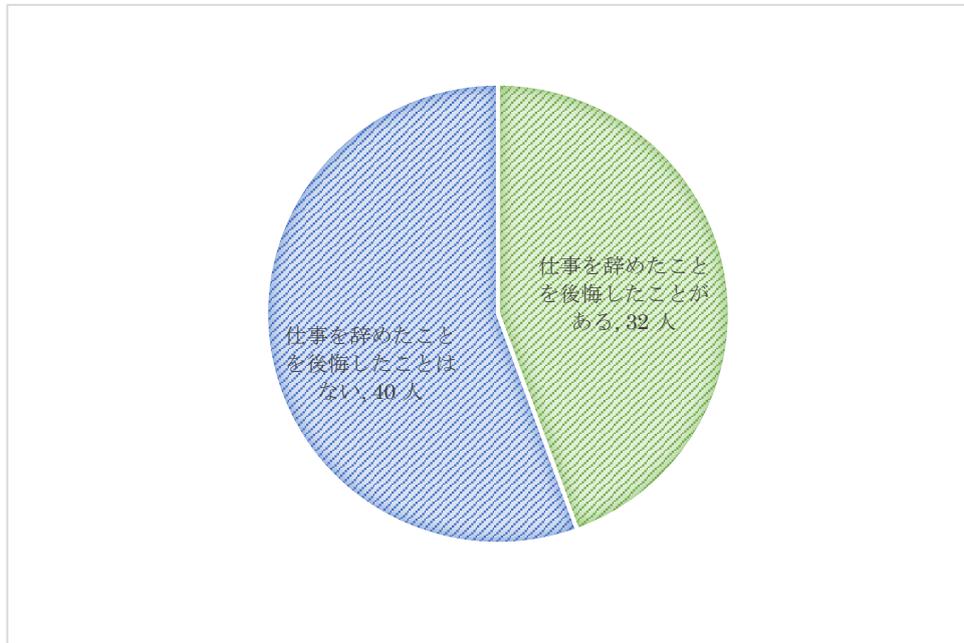
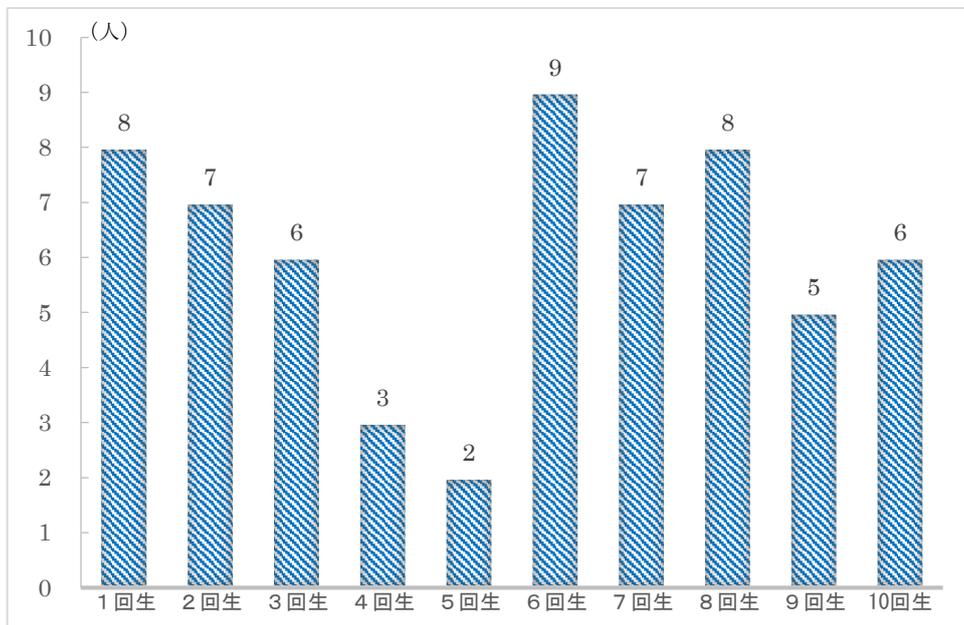


図 104 リカレント教育課程回生(n=61)(無回答13人を除く)(F21-2)



2011年度～2015年度
文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
事業番号 S1191007

女性のキャリア支援と大学の役割についての総合的研究
「女性のキャリア支援と大学の役割に関する調査」結果報告書

発行 2013年9月

編集 日本女子大学現代女性キャリア研究所

住所 〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1

TEL 03-5981-3380

FAX 03-5981-3381

Email riwac@fc.jwu.ac.jp